

平成27年度 教育課程担当（体育・保健体育）調査研究報告書

「体育・保健体育における『協調学習』の進め方」



埼玉県のマスコット
「コバトン」



埼玉県立総合教育センター

Saitama Prefectural Education Center

目 次

I	主題設定の背景と研究の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
II	研究の仮説と仮説検証の手立て	
1	研究の仮説	
2	仮説検証の手立て	
III	研究の内容について	
1	研究の方法	
2	研究実施計画	
3	調査研究協力委員所属校、職名、氏名、実施学年、運動領域・・・・・・・・	P 2
4	実践	
(1)	行田市立太田東小学校 亀山 友宏 教諭・・・・・・・・・・	P 3
	小2「体づくり運動（多様な動きをつくる運動遊び）」	
(2)	熊谷市立大幡小学校 中嶋 史和 教諭・・・・・・・・・・	P1 2
	小2「表現・リズム遊び」	
(3)	鶴ヶ島市立杉下小学校 鈴木奈津子 教諭・・・・・・・・・・	P2 0
	小6「ボール運動（ソフトバレーボール）」	
(4)	蓮田市立蓮田南中学校 武士侯豪志 教諭・・・・・・・・・・	P2 8
	中1「ダンス」	
(5)	戸田市立新曽中学校 矢作 有希 教諭・・・・・・・・・・	P3 6
	中2「陸上競技（走り幅跳び）」	
(6)	川島町立西中学校 遠藤 和宏 教諭・・・・・・・・・・	P4 4
	中3「器械運動（マット運動&跳び箱運動）」	
(7)	県立越ヶ谷高等学校 鶴見 舞 教諭・・・・・・・・・・	P5 5
	高1「器械運動（マット運動）」	
(8)	県立北本高等学校 袖山 和博 教諭・・・・・・・・・・	P6 4
	高1「陸上競技（長距離走）」	
(9)	県立春日部東高等学校 田崎 雅大 教諭・・・・・・・・・・	P7 2
	高1「ダンス」	
IV	研究のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P8 0

平成27年度調査研究「体育・保健体育における「協調学習」の進め方」

I 主題設定の背景と研究の目的

中央教育審議会は、新しい学習指導要領の在り方についての論点整理の中で、育成すべき資質・能力を、「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」、「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、「どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の3つの柱に整理し、バランスよく身に付けさせていくことを求めている。

埼玉県第2期教育振興基本計画においても、「協調学習など児童・生徒が主体的に授業に参加し、児童・生徒同士の相互作用によって課題を多面的・多角的に捉え、より質の高い思考力・判断力・表現力を形成していく取組を、小・中学校、高等学校で推進する」としている。

これからの小・中学校、高等学校における体育・保健体育の授業では、このことを踏まえ、「体力・運動技能」の向上とともに、思考力・判断力・表現力等の育成や学びに向かう力の育成を目指した授業を展開していくことが必要である。体育・保健体育の授業では、学習形態として、「ペア」や「チーム」等のグループによる学習がもともと多く取り入れられているが、児童・生徒同士のコミュニケーションや協働的な学習を通して、これらの資質・能力を育成するための指導の在り方について、授業実践を通して研究していく必要がある。

本研究は、「知識構成型ジグソー法」による協調学習を用いた体育・保健体育の授業実践を行い、「体力・運動技能」の確実な習得とともに、思考力・判断力・表現力を高める運動領域の指導方法、主体的・協働的な学びを引き出す指導方法等についての実践研究を行い、児童・生徒の発達の段階に応じた実践的な学習資料を開発することによって授業の改善に資することを目的に実施した。

II 研究の仮説と仮説検証の手立て

1 研究の仮説

体育・保健体育授業の中で協調学習「知識構成型ジグソー法」の手法を用いた授業を行うことによって、児童・生徒は主体的に運動に取り組み、仲間と協働的に課題の発見や解決に取り組むであろう。また、そのための指導方法の開発は、教師の授業改善につながり、「豊かなスポーツライフの実現」を目指した効果的な授業実践にもつながるであろう。

2 仮説検証の手立て

- (1) 研究協力委員による「知識構成型ジグソー法」の理解
- (2) 授業計画上の工夫に関する協議
(体育授業における「知識構成型ジグソー法」の活用場面の検討)
- (3) 協調学習に適した運動領域や単元の授業案の検討と実践
- (4) 効果検証（形成的授業評価による児童・生徒の意識変化）

III 研究の内容について

1 研究の方法

1カ年の調査研究とする。小学校教員、中学校・高等学校保健体育科教員、各3名ずつ、合計9名を研究協力委員に委嘱し、上記の仮説検証の手立てに取り組み、仮説を明らかにする。

2 研究実施計画（1カ年の研究とする。）

平成27年	5月12日	第1回研究協力委員会（講演、研究協力委員の委嘱等）
	7月7日	第2回研究協力委員会（作業内容の確認、分担等）
	9月8日	第3回研究協力委員会（進捗状況、計画修正等）
	10月9日	第4回研究協力委員会・会場校研修（鶴ヶ島市立杉下小学校）
平成28年	1月12日	第5回研究協力委員会（まとめ）

3 調査研究協力委員所属校、氏名、実施学年、運動領域

(1) 行田市立太田東小学校 教諭 亀山 友宏	第2学年 「体づくり運動（多様な動きをつくる運動遊び）」
(2) 熊谷市立大幡小学校 教諭 中嶋 史和	第2学年 「表現・リズム遊び」
(3) 鶴ヶ島市立杉下小学校 教諭 鈴木奈津子	第6学年 「ボール運動（ソフトバレーボール）」
(4) 蓮田市立蓮田南中学校 教諭 武士俣豪志	第1学年 「ダンス」
(5) 戸田市立新曽中学校 教諭 矢作 有希	第2学年 「陸上競技（走り幅跳び）」
(6) 川島町立西中学校 教諭 遠藤 和宏	第3学年 「器械運動（マット運動&跳び箱運動）」
(7) 県立越ヶ谷高等学校 教諭 鶴見 舞	第1学年 「器械運動（マット運動）」
(8) 県立北本高等学校 教諭 袖山 和博	第1学年 「陸上競技（長距離走）」
(9) 県立春日部東高等学校 教諭 田崎 雅大	第1学年 「ダンス」

4 実践

次ページ以降、各学校（研究協力委員の所属校）ごとに以下の内容を掲載した。

- (1) 学習指導案&授業デザイン案（CoREF）
- (2) エキスパート資料
- (3) 形成的授業評価の結果と成果と課題、今後の展望

月 日 ()	
体育授業についての調査 小・中学校 年 組 男・女 番 名前 () ◎ 今日の体育の授業について質問します。下の1～9について、あなたはどのように思いましたか。当てはまるものに○をつけてください。	
1 ふかふかにのこることや、かんどうすることがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 2 今まででできなかったこと（運動や作戦）ができるようになりましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 3 「あっ、わかった!」とか「あっ、そうか」と思ったことがありましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 4 せいっぱい、ぜんりょくをつくして運動することができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 5 楽しかったですか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 6 自分から進んで学習することができましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 7 自分のめあてにむかって何回も練習できましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 8 友だちと協力して、なかよく学習できましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ) 9 友だちとおたがいに教えたり、助けたりしましたか。 (はい・どちらでもない・いいえ)	9つの調査項目を毎時間授業の終了時に記入。 ○1～3の項目について 「成果」 ○4・5の項目について 「関心・意欲」 ○6・7の項目について 「学び方」 ○8・9の項目について 「協力」 「はい」・・・3点 「どちらでもない」2点 「いいえ」・・・1点 毎時の得点の平均点が、折れ線グラフと表になって示すことができる。

（形成的授業評価のアンケート用紙）

第2学年1組 体育科学習指導案

平成27年11月13日（金）第5校時
行田市立太田東小学校 2年1組
在籍児童数 男子7名 女子9名 計16名
指導者 教諭 亀山 友宏 教諭 田村 舞

1 単元名 「体づくり運動」（多様な動きをつくる運動遊び）

2 単元について

（1）教材観

「多様な動きをつくる運動遊び」においては、以下の運動の例示を参考に体の基本的な動きを総合的に身に付けることが求められている。

- ①「体のバランスをとる運動遊び」…回る、寝転ぶ、起きる、座る、立つなどの動き
- ②「体を移動する運動遊び」…這う、歩く、跳ぶ、はねるなどの動き
- ③「用具を操作する運動遊び」…持つ、降ろす、回す、転がす、くぐる、運ぶ、投げる、捕る、跳ぶ、用具に乗るなどの動き
- ④「力試しの動き」…押す、引く、運ぶ、支えるなどの動き

上記の学習内容を基に、学習意欲を喚起し、魅力的で発展性のある教材となるよう、易しい動きから少しずつ難しい動きへと人数・回数・距離・時間・姿勢・方向などを変化させて運動を工夫しながら行うことのできる教材とする。

（2）児童の実態

体づくり運動については、1年生の3学期に多様な運動遊びの内容を一通り経験している。しかし、普段から慣れていない動き（逆さ感覚やバランス感覚）などに取り組もうとすると戸惑いや不安を表す児童もいる。「体のバランスをとる運動遊び」については、校庭の平均台を利用した運動遊び（「ドンじゃんけん」）で体験している児童もいる。また、本校で1人1本与えられている「バランススティック」を利用し同様の遊びを体験している。体を移動させる運動遊びでは、跳ぶ・跳ねる運動遊びで普段のケンケン遊びを見ていると元気に勢いよく跳ねる児童は多くいる。用具を操作する運動遊びでは、フラフープを使った運動遊びを授業で経験している。力試しの運動遊びでは、手押し車でペアじゃんけん遊びを行ったことがある。両手で体を支えられる児童もいるが、すぐ崩れてしまう児童もいて、過去、ゲームが停滞してしまったことがある。

（3）指導観

小学校第1学年及び第2学年の体づくり運動では、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに体の基本的な動きができるようにすることが求められている。そこで、小学校2年生の児童には、全員ができる運動から始め、一つひとつの動きを身に付けさせることを重視する。また、教材の工夫を通して、限られた学習時間内に児童が意欲的に運動し、活気溢れる授業を目指す。特に、「多様な動きをつくる運動遊び」においては「バランス、移動、用具操作、力試し」の要素を含んだ運動遊びを開発するとともに、児童が主体的・協働的に学習に取り組むことができるよう学習過程を工夫する。

単元計画の作成では、協調学習の活用場面の工夫など、指導の手立てを工夫したい。そして、児童同士が多様な動きを主体的に発見したり、よい動きをしている友達を見つけ出したりできるよう、「関わり合い」の多い授業にしたい。その他、学習規律、教師の声かけ、児童同士の声かけ、学習教材・教具の工夫等についても工夫を行う。

学習内容については、上記に示した4つの動きを中心に学習を展開させ、単元後半では、自ら学習した動きのポイントをチーム内で共有できる時間を持たせる。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【関心・意欲・態度】
- ②多様な動きをつくる運動遊びの行い方を工夫することができるようにする。 【思考・判断】
- ③体のバランスをとったり移動したりするとともに、用具の操作をしたり力試しの運動遊びなどを行うことができるようにする。 【運動】

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	体づくり運動に進んで取り組むとともに、順番や決まりを守り仲良く運動しようとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしたりしている。	体づくりのための運動の行い方を工夫している。	多様な動きをつくる運動遊びを楽しく行うための体の基本的な動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。
学習活動に即した評価規準	①学習の見通しをもち、多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組みようとしている。 ②運動の順番やきまりを守って、友だちと仲よく運動しようとしている。 ③運動をする場や用具の使い方などの安全に注意して気を配ろうとしている。 ④友だちと協力して、用具の準備や片付けを積極的にしようとしている。	①体を動かすと気持ちがいよいことに気づき、運動遊びの行い方や動き方を見付けている。 ②友だちと一緒に運動したり用具を使って運動したりするなど、楽しく運動できる行い方を選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けている。	①体の姿勢や方向を変えて体のバランスをとる動きができる。 ②速さ・リズム・方向などを変えて体を移動する動きができる。 ③用具を操作し、用具に合わせた動きができる。 ④力の入れ方を変えて体を支え、力試しの運動ができる。

4 指導計画（本時 5 / 8）

段階	学習活動	指導上の留意点（指導○ 評価規準◆）
はじめ 4 5 × 1	「ドキドキミラクルジャングルたんけんへGO!」の運動の行い方を知り、安全に気をつけて運動しよう。	
	1 学習の仕方について知り、単元の見通しをもつ。 ・「バランスの森」、「ダッシュ＆ランの獣道」、「ジャンプの崖」、「逆さの壁」の場を紹介して、運動の行い方を確認する。 2 四つの場をローテーションし、運動する。 ・記録の計り方	○単元の見通しを持たせ、学習カードの使い方などを理解させる。 ○男女混合の異質4人グループを構成し、友だち同士で声をかけ合ったりさせ、ジャングルたんけんへの興味を持たせる。 ○それぞれの場での約束や正しい運動の仕方について伝える。 ◆学習の見通しをもち、多様な動きをつくる運動遊びに進んで取り組もうとしている。【関①】
なか	基本学習 いろいろな動きをやってみて、ジャングルをたんけんしよう！	
	1 準備運動をする。 2 仲間と協力しながら学習に取り組む。	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○それぞれの場において「エキスパート学習」の課題を提示し、運動に対するめあてを持たせる。
	2・3 時間目	・「1人でバランス」のコツや工夫を見付けながら動きを高めよう。 ・「1人でジャンプ」のコツや工夫を見付けながら動きを高めよう。
	4・5 時間目	・「1人でダッシュ」のコツや工夫を見付けながら動きを高めよう。 ・「1人で逆さ感覚」のコツや工夫を見付けながら動きを高めよう。
	4・5 時間目	・「チームでバランス」のコツや工夫を見付けながら動きを高めよう。 ・「チームで長縄」のコツや工夫を見付けながら動きを高めよう。
か	エキスパート活動	
	① 4 5 × 4	・「バランスの森」、「ダッシュ＆ランの獣道」、「ジャンプの崖」、「逆さの壁」の場にわかれ、それぞれの場での課題に取り組む。 ・学習カードに取り組んでみてわかったことを記入する。 Aグループ ○△◆◇ Bグループ ○△◆◇ Cグループ ○△◆◇ Dグループ ○△◆◇
	ジグソー活動	
	・エキスパート活動で学んできたことを仲間に伝えたり、運動したりしながらコツやポイントを確認する。（他のコツを探しながら多様な運動遊びに取り組む。） Aグループ ○○○○ Bグループ △△△△ Cグループ ◆◆◆◆ Dグループ ◇◇◇◇	○グループごとに協力して場を準備させる。 ○それぞれの運動の場で、課題解決に向けた取り組みが行われているか声をかける。 ◆体を動かすと気持ちがいよいに気付き、運動遊びの行い方や動き方を見付けている。【思①】 ◆運動の順番やきまりを守って、友だちと仲よく運動しようとしている。【関②】 ◆体の姿勢や方向を変えて体のバランスをとる動きができる。【技①】 ○自分が学習してきた内容を一生懸命に伝えている児童を称賛し、記録や動きが高まった要因などを発問することで、学んできたコツやポイントを実感させる。 ○上手く伝えられない児童のいるグループでは、適宜声をかけていく。 ◆友だちのよい動きを見付けている。【思③】 ◆速さ・リズム・方向などを変えて体を移動する動きができる。【技②】

な か ② 4 5 × 2	発展学習 友だちと協力して、動きを高め、ジャングルからきりぬけよう！ 1 準備運動をする。 2 仲間と協力しながら学習に取り組む。 レベルアップ学習 ・ジグソーのグループで学習 ・「バランスの森」、「ダッシュ&ランの獣道」、「ジャンプの崖」、「逆さの壁」の4つの場をローテーションし、動きを工夫しあいながら記録の向上を目指す。 チャレンジタイム ・たんけんゾーンを回りもう少しでできそうな段階に挑戦する。 Aグループ ○ ○ ○ ○ B △ △ △ △ C ◆ ◆ ◆ ◆ D ◇ ◇ ◇ ◇	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○グループごとに協力して場を準備させる。 ○これまでの動きのコツや工夫の仕方を基にして動きがより正確にできるように声をかける。 ○グループで励まし合いながら挑戦することができるように声をかける。 ○新たに工夫したり、記録を向上させたりしたグループを紹介し、称賛するとともに、工夫した動きを真似させる。 ◆友だちと一緒に運動したり用具を使って運動したりなど、楽しく運動できる行い方を選んでいる。【思②】 ◆運動をする場や用具の使い方などの安全に注意して、気を配ろうとしている。【関③】 ◆用具を操作し、用具に合わせた動きができる。【技③】 ◆友だちと協力して、用具の準備や片付けを積極的にしようとしている。【関④】
ま と め 4 5 × 1	1 準備運動をする。 2 仲間と協力しながら学習に取り組む。 レベルアップ学習 ・ジグソーのグループで学習 ・4つの場をローテーションし、動きを工夫しあいながら記録の向上を目指す。 3 選択した運動を発表する。 4 単元のまとめをする。	○一つ一つの動きを正確に行わせる。 ○新たに工夫したり記録を向上させたりすることができた運動の発表準備をさせる。 ◆力の入れ方を変えて体を支え力試しの運動ができる。【技④】 ○単元を通じて多様な動きができるようになったか思うように体を動かすことができるようになってきたか等の気付きについて発表させる。

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構（C o R E F）
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名： 行田市立太田東小学校

授 業 者：田村 舞
教材作成者：亀山 友宏

授業日時	平成27年11月13日（金）	教科・科目等	保健体育
学年・年次	第2学年	児童生徒数	16人
実施内容	体づくり運動	本時／全時数	5／8

授業のねらい（本時の授業を通じて児童に何を身に付けてほしいのか、この後どんな学習につなげるために行うか。）

本時の授業のねらいは、「速さ・リズム・方向などを変えて体を移動する動きができる」ことである。エキスパート学習で学んできたことを他の友だちに伝えたり、運動しながらコツやポイントを確認したり、他にコツがないかを考え合いながら多様な運動遊びに取り組みせ、仲間同士で達成感を味わわせていきたい。

メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）

友達と協力して動きを高め、ジャングルからきりぬけよう！

児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

体のバランスをとる運動遊び、体を移動する運動遊び、用具を操作する運動遊び、力試しの運動遊びについて取り組みせ、それぞれの運動遊びのコツをつかむ。しかし、それを書いたり話したりすることで仲間につたえるというところに困難を感じる児童が多いと思われる。さらに低学年であるため、語彙が限られている点で、どこまで正確に運動遊びのコツが伝わるかが不透明である。

単元前半から口伴奏や掲示物で、運動遊びのコツを学習開始時には広めておき、前時の復習を適宜行うなどして対応していきたい。

期待する解答の要素（本時の最後に児童が上記の課題に答えるときに、答えに含まれていてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準。）

体のバランスをとる運動遊びでは、低い位置より高い位置でバランスをとるほうが難しいという点に気付いてほしい。高い位置でバランスをとる場合は、体全体を使って大きくバランスを保つようにすることが大切である。また、仲間と共に体を寄せ合うことでバランスを保つことができるという点についても確認させておきたい。体を移動する運動遊びでは、一つの運動又は複数の運動を組み合わせる回数や距離に応じて何度も行うことで高まる。また、スタート時の姿勢やスタート後の姿勢についても大切であるということを確認させておきたい。用具を操作する運動遊びでは、タイミングやリズムカルな動きができることが必要である。仲間と声をかけ合ったり、運動言葉を見つけることができ、言うことができることが大切である。さらに、縄跳びを跳ぶ位置や縄から出て行く方向についても気付くことができるように確認させていきたい。力試しの運動遊びでは、いろいろな倒立をさせることで自分の体を支えるには、ある程度の力が必要であることに気付かせる。仲間との補助により、助け合いながら取り組ませていく。

各エキスパート

〈対象の児童が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動について〉

- A バランスをとる運動遊び：バランスボールを使って、体全体を使って大きくバランスを保つようにする。
- B 体を移動する運動遊び：いろいろな姿勢からのダッシュをさせることで、素早く走ることができるようにする。
- C 用具を操作する運動遊び：長縄を使って、タイミングをとり、リズムカルな動きができるようにする。
- D 力試しの運動遊び：いろいろな倒立（逆立ち）をさせることで、自分の体を支えることができるようにさせる。

ジグソーで分かったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

より正確な運動となるような工夫をさせ、回数や時間などの負荷を変えて行わせてみる。また、それぞれの運動遊びのコツをつかませるために、エキスパート学習やジグソー学習を活発に行わせる。

前後の学習と本時の関連

時間	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい目安
前時 (第4時)	エクスパート学習で学んできたことを他の友だちに伝える。 運動しながらルールを確認させ、多様な運動遊びに取り組む。 A バランスをとる運動遊び B 体を移動する運動遊び C 用具を操作する運動遊び D 力試しの運動遊び	・友だちのよい動きを見つけている。
本時 (第5時)	エクスパート学習で学んできたことを他の友だちに伝えたり、運動しながらコツやポイントを確認したり、他にコツがないかを考え合いながら多様な運動遊びに取り組む。 (上記のA・B・C・D)	・速さ・リズム・方向などを変えて体を移動する動きができる。
次時 (第6時)	4つの運動遊びの動きをさらに工夫しあいながら記録の向上を目指す。	・友だちと一緒に運動したり用具を使って運動したりなど、楽しく運動できる行い方を選んでいる。 ・運動をする場や用具の使い方などの安全に注意して、気を配ろうとしている。
上記の一連の学習で目指すゴール		
エクスパート学習で学んできたことを他の友だちに伝えたり、運動しながらコツやポイントを確認したり、他にコツがないかを考え合いながら多様な運動遊びに取り組ませ、仲間同士で達成感を味わわせたい。		

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
	〈導入〉 1 集合、整列、挨拶、健康観察を行う。 2 準備運動（あすなろバランススティック体操）を行う。 〈課題提示〉 〔基本学習〕 いろいろな動きをやってみてジャングルをたんけんしよう！ 〈ジグソータイム〉 1 バランスをとる運動遊び 「バランスの森」・バランスボール 2 体を移動する運動遊び 「ダッシュ&ランの獣」・ダッシュ&ラン 3 用具を操作する運動遊び 「ジャンプの崖」・長縄 4 力試しの運動遊び 「逆さの壁」・いろいろな倒立（逆立ち） 〈クロストーク〉 取組の実践例や感じたことなどを全体の前で発表し合う。 〈全体の振り返りとまとめ〉 1 学習のまとめをする。 ・見本となるグループの紹介 ・学習カードに記録を記入 2 後片付け、整理運動をする。 3 次時の予告・挨拶	○素早く集合させ、気持ちの良い挨拶で学習がスタートできるようにする。 ○準備運動を一つ一つ正確に行わせ、体の調子を整えさせる。 ○掲示資料や学習カードに動き方やルールなどについて載せ、いつでも意識して取り組むことができるようにする。 ○前時のジグソータイムで上手くいった所やそうでなかった所を確認させ、新たな動きの工夫やコツを検討させる。 ○それぞれの教材のルールなど基本的なことが分かっているかを発問するなどして確認する ◆速さ・リズム・方向などを変えて体を移動する動きができる。 【技能②】 【努力を要する児童への手立て】 掲示資料や学習カードを見せ、動き方を教え、一緒に動いて見せる。 【十分満足と判断できる児童への発展的な内容】 エキスパート学習で取り組んできた内容をもとにさせ、さらに動きの工夫やコツを考えさせる。 ○ジグソータイムで動きに高まりが見られたグループを全体へ紹介して動きの工夫やコツを共有させる。 ○次時にさらにグループで記録を高めていくことができるよう意欲化を図る。

グループの人数や組み方

- ・エキスパート活動・・・4人×4グループ
- ・ジグソー活動・・・4人×4グループ
- ・欠席者がいた場合は、適宜グループを調整するが、エキスパート活動、ジグソー活動では、2人以下にならないように調整する。

【参考文献】

小学校体育まるわかりハンドブック（文部科学省）
 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）
 小学校学習指導要領解説 体育編（平成20年8月）文部科学省
 学校体育実技資料大7集 体づくり運動（文部科学省）

エキスパートA

バランスの森 (バランススティック)

1人で

- ① バランスボールにすわる
- ② バランスボールにすわる (せいざ)
- ③ バランスボールにすわる (立ちひざ)

目ひょう 10秒

2～3人で

- ①と②と③にチャレンジ!

エキスパートB

ダッシュ&ランのけもの道 (しっぽとり)

体育すわり あおむけ うつぶせ 長さ

- ① いろいろなしせいからのスタート

1 m 2 m 3 m 4 m

- ② いろいろなきょりからのスタート

目ひょう 10点いじょう

エキスパートC

ジャンプのがけ (長なわ)

1人で! 2～3人で! (れんぞくで) 目ひょう 10～30回

2～3人で! (れんぞくで)

兄弟チームで (れんぞくで)

目ひょう チームで10びょう

- ① ながなわをくぐる ② 長なわをとぶ (かいせんとび)

エキスパートD

さかさのかべ (さか立ち)

- ① かべよじのほり
- ② 頭つきかべさかだち
- ③ かべとうりつ

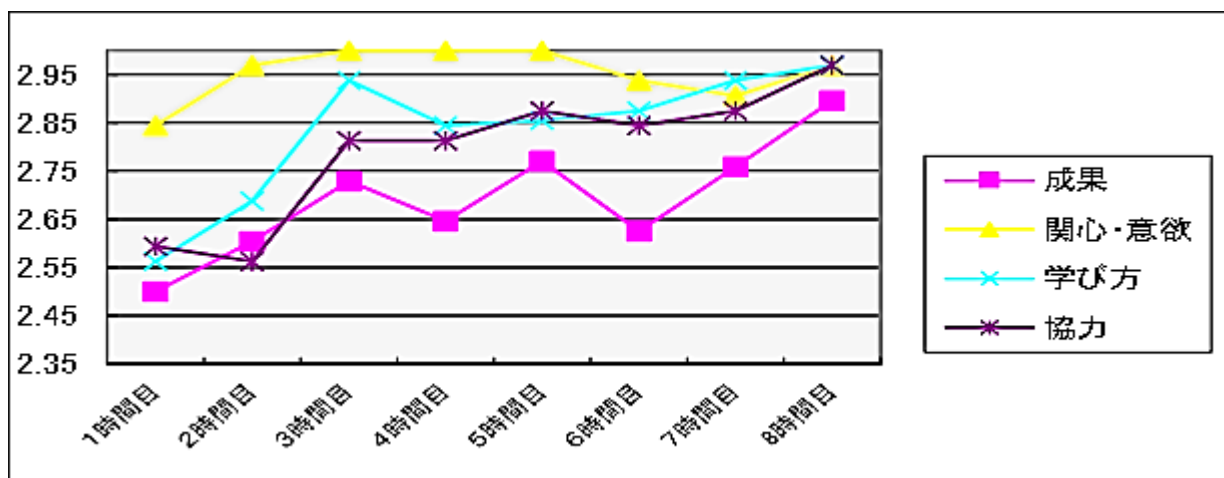
目ひょう 3点→20びょう

目ひょう チームで10びょう

目ひょう チームで15びょう

7 成果と課題

【小学校 第2学年 体づくり運動（多様な動きをつくる運動遊び）】



	1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目	6 時間目	7 時間目	8 時間目
総合評価	2.61	2.69	2.85	2.82	2.87	2.79	2.85	2.94
成 果	2.50	2.60	2.72	2.65	2.76	2.62	2.75	2.89
関心・意欲	2.84	2.96	3.00	3.00	3.00	2.93	2.90	2.96
学び方	2.56	2.68	2.93	2.85	2.86	2.87	2.93	2.96
協 力	2.59	2.56	2.81	2.81	2.87	2.84	2.87	2.96

(3点満点)

(1) 成果

- ①学び方項目の向上が著しかった。特にエキスパート活動により学習したことをチームへ帰ったときには、自ら説明をしなくてはならないという責任感を児童に与えることができたと思う。
- ②協力項目の向上も著しかった。エキスパート活動で集まった他チームの児童との教え合いによって、より理解を深めていくことができたと思う。
- ③運動の成果項目も向上させることができた。4つの運動遊びのコツをジグソー活動でチームへ広めて共有させ、運動する時間を長めに設けていった結果ではないかと考える。
- ④6時間目以降のレベルアップタイムやチャレンジタイムを設けたことで、運動が上手な児童が実際に運動しながら手本となっている様子が各場で沢山見ることができた。また、思い通りにいかない児童には、補助のやり方などを教えることで、児童も進んで補助をするなど、教え合い・学び合いが深まり、技能の向上につながっていたのではないかと考える。

(2) 課題

- ①教え合い・学び合いをより活性化させていくための指導法の工夫
- ②協調学習を取り入れた児童がより楽しんで運動することができる効果的な学習過程の工夫

(3) 今後の展望

協調学習を取り入れた授業を実践したことで児童同士の教え合い・学び合いはとても上手になってきた。資料を使わなくても説明することができるようにしていきたい。今後は、他学年でも授業実践をしていくことができるよう、指導法や指導内容等を体系化していきたい。

第2学年4組 体育科学習指導案

平成27年12月17日(木) 6校時
熊谷市立大幡小学校 2年4組
在籍児童数 男子15名 女子12名
指導者 教諭 中嶋 史和

1 単元名 「表現リズム遊び」 (表現遊び)

2 単元について

(1) 教材観

「表現遊び」を取り扱うにあたっては、いろいろな題材の特徴や様子(「〇〇が〇〇しているところ」)、動きの中で急変する場面(「大変! 〇〇だ」)等の設定を通して、具体的な動き(跳ぶ、回る、ねじる、這う、素早く走るなど)を高・低の差や速さの変化を付けて全身で即興的に踊ることが重要である。また、友達とさまざまな動きを見つけて踊ったり、みんなで調子を合わせて踊ったりして楽しむことも大切である。「表現遊び」は、いろいろなイメージを思い付くままに即興的に踊ったり、力いっぱい全身を使ったりして動くことの楽しさを十分に味わわせることができる運動遊びである。しかし、自分の動きを嘲笑されたり、けなされたりすると意欲を失ってしまう運動遊びでもある。

(2) 児童観

本学級の児童は、全体的に活発で、体を動かすことが好きである。休み時間などでは、ほとんどの子が外遊びをしている。

「表現リズム遊び」について、児童は曲に合わせて踊ることは好きである。また、そのものになりきることに抵抗を感じている児童は少ない。しかし、テーマを決めて即興表現をすることに慣れていないため、表現力が乏しく単調な動きになってしまいがちである。

<今年度の新体力テストの結果(2年生)>

2年		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
男子	本校	10.73	16.05	29.03	35.92	35.26	10.96	134.33	11.94
	県平均	10.89	15.23	28.54	32.26	30.99	10.66	127.54	11.27
	比較	×	○	○	○	○	×	○	○
女子	本校	9.61	15.36	31.82	34.23	27.67	11.32	126.43	7.82
	県平均	10.34	14.73	31.61	30.66	25.11	10.95	120.33	7.60
	比較	×	○	○	○	○	×	○	○

○全体的な体力の課題

本学年の児童は、男女共に8種目中6種目で埼玉県平均を上回っており、比較的体力は高いと言える。しかし、数値を見ると、握力、走力に課題が見られる。

(3) 指導観

「表現リズム遊び(表現遊び)」では、「動物」や「乗り物」などの児童にとって身近な題材の特徴をとらえて、そのものになりきって全身の動きで楽しく踊ることが求められる。本単元では、児童にとって比較的イメージしやすい「生き物」を題材として取り上げ、表現遊びを行う。

協調学習を複数時間実施して、いろいろな生き物の特徴をとらえた動きを味わわせたい。また、児童たちの自由な発想で踊らせたい。運動の苦手な児童でも、グループ内で主体的に関わって運動に取り組ませるようにしたい。単元の終末では、「大変! 〇〇だ」のような急変する場面を取り入れ、簡単な話を作らせるとともに、まとめの時間として発表会を行う。学び合いを通して仲間と協力して技能を高め合えるような展開にしていきたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①友達と気持ちを合わせて踊ったり、互いのよいところを見付け合ったりして、仲良く運動することができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ②楽しく踊るために自分なりのめあてをもち、活動の仕方を工夫することができるようにする。【思考・判断】
- ③表したい感じの動きを体いっぱい使って表現することができるようにする。【技能】

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
表現リズム遊びに進んで取り組むとともに、だれとでも仲よく踊ろうとしたり、運動する場の安全に気を付けようとしていたりしている。	簡単な踊り方を工夫している。	題材になりきったりリズムに乗ったりして楽しく踊るための動きや各種の運動の基礎となる動きを身に付けている。
【学習活動に即した評価規準】		
①表現遊びに楽しく進んで取り組もうとしている。 ②友達の動きを認めて声をかけ、だれとでも仲よく踊ろうとしている。 ③友達とぶつからないよう場の安全に気を付けようとしている。	①表現遊びを楽しく踊るための動きを友達の良い動きから見付けている。 ②高低の差や速さの変化を付けた動きを見付けている。	①身近な題材の特徴をとらえ、跳ぶ、回る、ねじる、這うなど全身で踊ることができる。 ②動きの中に「大変だ！○○だ」のような急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊ることができる。

4 指導計画

段階	学習活動のねらいと・活動	指導上の留意点（指導○・評価規準◆）	評価方法
は じ め 45 分	○学習のねらいを理解し学習の仕方や進め方に見通しをもつ。 ○準備運動や運動の活動方法を確認する。 ○慣れの運動を行う。 ・体じゃんけん ・鏡遊び ・ジェスチャーゲーム ○動物カルタに取り組む。	○学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ意識を高める。 ○簡単な表現遊びで体を動かして心身をリラックスさせ表現させる。 ○なかなか動けない児童には助言し、一緒に踊るようにする。 ○動物カルタで、描かれた動物を即興で踊らせる。 その際、音楽を流し楽しい雰囲気を作る。 ◆表現遊びに楽しく進んで取り組もうとしている。 【関①】	観察

な か 45 分 × 3	生き物になりきって、おどろう！		観察 学習カード 観察
	学びタイム（エキスパート活動） ○海の生き物になって踊る あ：ペンギン い：カニ う：タコ ○野原の生き物になって踊る あ：チョウチョ い：カマキリ う：ヘビ ○動物になって踊る あ：ゾウ い：サル う：リス	○それぞれの場において、一つの動物の特徴や動き方を話したり、踊ったりさせる。	
	教えタイム（ジグソー活動） ○エキスパート活動で学んできたことを他のメンバーに伝えたり、踊りをまねしたりしながらその動物になりきって踊る。 伝えタイム（クロストーク） ○ミニ発表をする。 ○踊ってみて、感想を伝え合う。	○掲示資料に、動きのヒントを載せ、イメージを膨らませやすくする。 ○ジグソー活動では、互いに高め合い、楽しい雰囲気の中で学習が進むように、伝え方や励まし方の手本を最初に示す。 ○一生懸命な児童や協力している班を積極的に称賛することで、教え合いが深まるように声かけをする。 ○よい動きをしている児童の動きをみんなでまねしてみようさせる。 ○よかったところを積極的に発表させる。 ◆友達の動きを認めて声をかけ、だれとでも仲よく踊ろうとしている。【関②】 ◆高低の差や速さの変化を付けた動きを見付けている。【思②】 ◆身近な題材の特徴をとらえ、跳ぶ、回る、ねじる、這うなど全身で踊ることができる。【技①】	
な か 45 分	○急変する場面を入れて簡単な話作りをする。	○はじめ、なか、おわりでお話作りをさせる。 ○なかの部分に急変する場面を考えさせる。 ○今まで踊ってきた生き物の中から選んでお話を作るようにさせる。 ◆友達とぶつからないよう場の安全に気を付けようとしている。【関③】 ◆動きの中に「大変だ！○○だ」のような急変する場面を入れて簡単な話にして続けて踊ることができる。【技②】	観察 観察
お わ り 45 分	○単元のまとめとして、みんなでダンス発表会を開く。 ○感想発表をする。 ○単元のまとめをする。	○動きの大きさや速さ、生き物の特徴をつかんで表現できているかという点に目を向けさせるようにする。 ◆表現遊びを楽しく踊るための動きを友達の良い動きから見付けている。【思①】	発言 学習カード

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名： 熊谷市立大幡小学校

授 業 者： 中嶋 史和

教材作成者： 中嶋 史和

授業日時	平成27年12月17日(木)	教科・科目	体 育
学年・年次	第2学年	児童生徒数	27人
実施内容	表現遊び	本時／全時数	4／6

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

本時の授業のねらいは、「ある動物になりきって踊る」ことである。意図的に学び合う場面を設定し、動物の特徴やいろいろな動き方を発見し、共有していく活動を通して、一人一人の技能、友だちとの関わり方、学習に対する意欲の向上を目指す。

メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）

海の生き物、野原の生き物、動物になりきり、そのものの特徴を通していろいろな動きを身に付けよう。

児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

楽しんで動物になりきることは容易にできそうだが、児童は動きのバリエーションは比較的少ないと見られる。ジグソー活動の3つの要素を学習し、動きの質を高められるようにしたい。学習において困難な点として、エキスパート活動で身に付けたものを、ジグソー活動で友だちに伝える時にうまく伝えられない児童がいることが考えられる。

期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

踊る時に、その動物になりきって、体の特徴やいろいろな動き方を工夫して踊ることができるようになる。

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞

①海の生き物になって踊る

あ (A)：ペンギン

い (B)：カニ

う (C)：タコ

②野原の生き物になって踊る

あ (A)：チョウチョ

い (B)：カマキリ

う (C)：ヘビ

③動物になって踊る

あ (A)：ゾウ

い (B)：サル

う (C)：リス

ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

- ・急変する場面を入れて簡単な話作りをする。
- ・単元のまとめとして、みんなでダンスパーティーを開く。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
前時	・海の生き物になって踊る。 ・野原の生き物になって踊る。	・海の生き物になりきって踊ることができる。 ・野原の生き物になりきって踊ることができる。
本時	・エキスパート活動に取り組む。 動物になって踊る あ (A) : ゾウ い (B) : サル う (C) : リス ・ジグソー活動で、エキスパート活動で学習したことを自分のグループに教え、それぞれの動物の踊りを高める。 ・クロストークで、お互いの良いところを見合い、更に高める。	・動物になりきって踊ることができる。
次時	・急変する場面を入れて簡単な話作りをする。 ・単元のまとめとして、みんなでダンス発表会を開く。	・これまでの学習を生かして、自分のグループのお話を発表している。 ・友だちのよい動きを見つけることができる。

上記の一連の学習で目指すゴール

- ・題材になりきって、自分たちで考えたお話を仲間と楽しく踊ることができる。
- ・友だちのよい動きに気づき、自分の踊りの中に取り入れることができるようになる。

本時の学習活動のデザイン

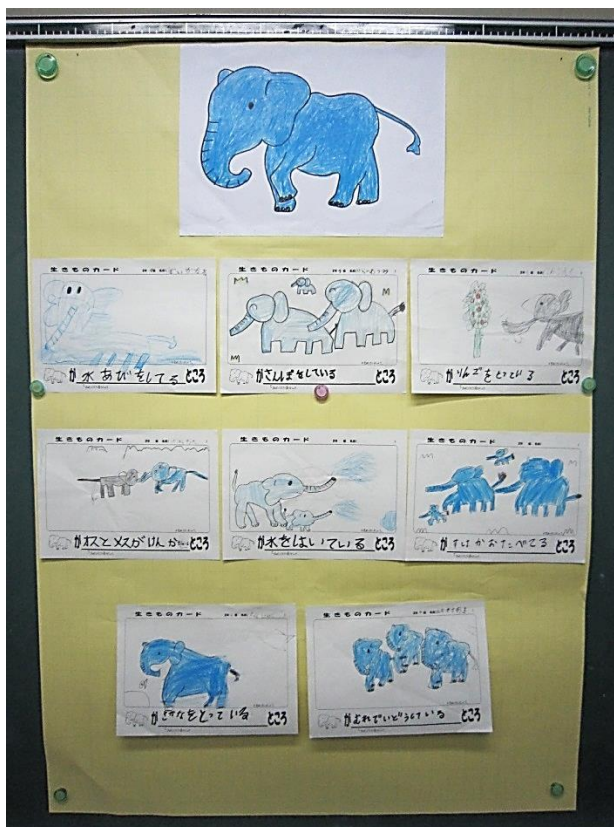
時間	学習活動	支援等
5 分	<導入> ・集合、整列、挨拶、健康観察を行う。 ・準備運動をする。 ・慣れの運動をする。 <課題提示> 動物になりきっておどろう！	○素早く集合させ、元気のよい挨拶で学習がスタートできるようにする。 ○心も体もほぐすような準備運動・慣れの運動にする。
1 5 分	<エキスパート活動> A ゾウ…力強く足踏みする、鼻を振る、鼻で水をかけるなど B サル…手足を面白く動かす、素早く木を登る、食べ物を食べるなど C リス…歩き回る、餌を食べる、木を登るなど	○提示資料や学習カードに動きや課題解決のヒントになるポイントを載せ、意識して取り組めるようにする。 ○グループの中で見合う時間も取り入れ、よい動きを見つけ、自分にも取り入れられるようにする。
1 0 分	<ジグソー活動> ・エキスパート活動で学んできたことを他のメンバーに伝えたり、踊りをまねしたりしながらその動物になりきって踊る。	○互いに高め合い、楽しい雰囲気での学習が進むように、伝え方や励まし方の手本を最初に示す。 ○教えてもらった全ての動きを体験させる。 ○一生懸命な児童や協力している班を積極的に称賛することで、教え合いが深まるように声かけをする。 ◆身近な題材の特徴をとらえ、跳ぶ、回る、ねじる、這うなど全身で踊ることができる。 【技能①】
1 0 分	<クロストーク> ・ミニ発表をする。 ・踊ってみたいの感想を伝え合う。	○よい動きをしている児童の動きをみんなでまねしてみるようにさせる。 ○よかったところを積極的に発表させる。
5 分	<活動の振り返りとまとめ> ・学習カードに記入し、発表する。 ・学習のまとめをする。 ・整理運動をする。 ・挨拶をする。	○本時の学習活動を通して、よかった点を発表させる。 ○高まりの見られたグループを紹介し、次時の活動に生かせるようにする。 ○ゆっくりと大きな動作でできるようにする。 ○元気よく挨拶できるようにする。

グループの人数や組み方

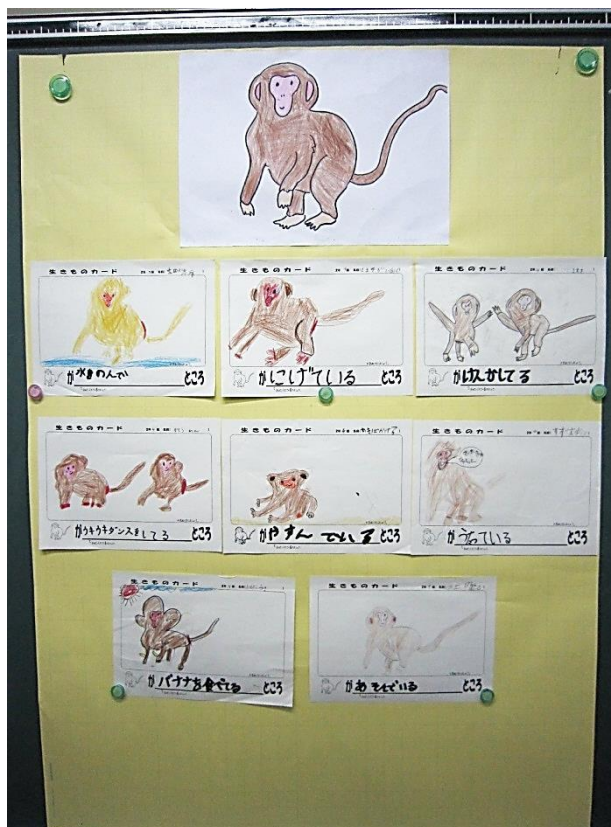
- ・エキスパート活動・・・9人×3グループ
- ・ジグソー活動・・・・・・3人×9グループ
- ・欠席者がいた場合は適宜グループを調整するが、活動の人数が2人以下にならないようにする。

6 資料

エキスパート資料A



エキスパート資料B

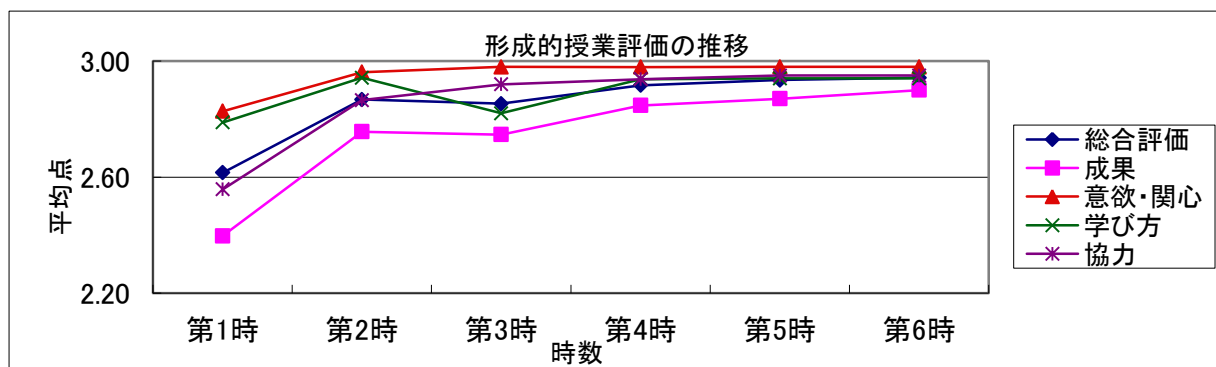


エキスパート資料C



7 成果と課題

【小学校 第2学年 表現遊び】



	第 1 時	第 2 時	第 3 時	第 4 時	第 5 時	第 6 時
総合評価	2.62	2.87	2.85	2.92	2.94	2.94
成果	2.40	2.76	2.75	2.85	2.87	2.90
意欲・関心	2.83	2.96	2.98	2.98	2.98	2.98
学び方	2.79	2.94	2.82	2.94	2.94	2.94
協力	2.56	2.87	2.92	2.94	2.95	2.95

(3 点満点)

(1) 成果

- ①児童同士の教え合いが活発になり、教え方も授業を重ねるたびに上手にできるようになってきた。
- ②授業で書かせた学習カードには、エキスパート活動で学んだことをジグソー学習で伝えるという学習の進め方をまたやってみたいという感想が多かった。受け身の授業から、主体的・積極的な授業に変化し、児童たちの学ぶ意欲は非常に高まったと考える。

(2) 課題

- ①児童にビブスを着用させ、ビブスの色や番号を活用すれば、エキスパート活動やジグソー活動がより円滑に進んだと考えられる。
- ②「体をいっぱいを使う」ということがあまり意識させられなかった。どの部分をどう使うかなど、ねらいに迫る動きをもっと具体的に示すことが必要である。また、扱う題材の映像や写真なども有効である。
- ③エキスパート活動では、構成メンバーを更に小グループに分け、その小グループ内でも具体的な役割を与えなければならないような状況を設定しないと、児童は何をやったらよいか分からず、活動が停滞してしまう。
- ④教師が生き物の動きのヒントや答えを与えてしまったが、そうではなく児童から出てきた考えを大切にしていけることが協調学習では求められる。

(3) 今後の展望

知識構成型ジグソー法では、授業がうまく流れていく「しかけ」をうまく構築しておくことが教師に求められる。今回の実践では、教師がエキスパート活動の3つのグループに支援や教授を細かくしてしまった。そうではなく、児童同士で自然に試行錯誤し始められるような資料の提示や場の設定を検討していくことが求められる。低学年という発達段階における体育科の協調学習の実践は非常に難しさを感じた。まず、友達に伝えることの不得手さが挙げられる。

また、児童の頭の中で考えたことが実際の運動になった時に、うまく結び付けられないことも考えられる。協調学習を今後実践していくには、体育科だけでなく違う教科や領域でこの学習形態に慣れ親しんでいくことが必要性を強く感じた。

第6学年2組 体育科学習指導案

平成27年10月9日(金)第5校時
鶴ヶ島市立杉下小学校 6年2組
在籍児童数 男子21名 女子16名
指導者 教諭 鈴木 奈津子

1 単元名 「ボール運動」(ネット型・ソフトバレーボール)

2 単元について

(1) 教材観

- ・軽くて柔らかいボールを使用することでボールに対する恐怖心や不安を取り除きやすい運動である。また、片手や両手で操作したり、チームの連係プレーによって攻撃ができたりするように、「ボールの落下地点に素早く移動すること」が技能の重要な運動でもある。
- ・チームの連係で得点することができると、より仲間との一体感が増し、ネット型ボール運動ならではの楽しさや喜びを味わうことができる。また、チームで協力して攻め方や守り方(作戦)を工夫し、その作戦が成功することでも同様の喜びを味わうことができる。
- ・練習やゲームを通して仲間と教え合い、励まし合うことで、チームに貢献することの喜びや大切さを学ぶことのできる運動である。

(2) 児童観

本学級の児童は明るく元気である。男女の仲もよく、集団での遊びや運動には協力的だが、時に互いを批判したり不平を言い合ったりする場面も見られる。
新体力テストの結果から、男女とも体力は決して高くない。スポーツクラブに所属する一部の児童とそうでない児童の運動に対する意欲の二極化が見られる。

本学級はソフトバレーボール未経験の児童がほとんどである。ネット型のゲームは中学年のときのプレルボール以来である。身長差や技能の難しさから、本単元を不安に思う児童が多いことが、事前アンケートで分かった。

(3) 指導観

ボール運動ネット型では、「簡易化されたゲームで、チームの連携による攻撃や守備によって、攻防をすること」が技能として求められている。したがって、ソフトバレーボールの特性や魅力を十分に味わわせることができるよう、児童の実態に応じた練習方法や簡易化したゲーム等の学習教材を開発する。児童にとって分かりやすいルールと、ソフトバレーボールを楽しむための技能習得に主眼を置くとともに、児童が夢中になって取り組めるような授業を目指す。また、協調学習を活用し、児童同士の主体的・協働的な学びが多く発生するような環境を意図的に作り出していきたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ・ルールやマナーを守り、仲間と協力し、安全に気をつけて運動することができるようにする。
【関心・意欲・態度】
- ・自分のチームの特徴に応じた作戦を立て、ゲームに生かすことができる。 【思考・判断】
- ・レシーブやパス、アタックなどの基本的な技能を身に付け、チームでボールをつなぎ、3段攻撃ができるようにする。 【運動の技能】

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
ボール運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、ルールを守り助け合って運動をしようとしたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりしている。	ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に合った作戦を立てたりしている。	ネット型について、簡易化されたゲームで攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きを身に付けている。
学習活動に即した評価規準		
①集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ③用具の準備や片づけで、分担された役割を果たそうとしている。 ④運動をする場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。	①ネット型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ②チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。	①レシーブ、トス、アタックなどの基本技能ができる。 ②簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備をするための動きができる。

4 指導計画（本時 6/8）

段階	学習活動	指導上の留意点（指導○・評価◆）
はじめ 4 5 分 × 1	○学習のねらいを知り、単元の見通しをもつ。 ・用具の準備や片付けの行い方を知る。 ・学習カードや学習資料の使い方を知る。 ・学習の流れや、学習過程を知る。 ○ボールを扱う基本技能について知る。 ・レシーブ、（キャッチ）トス、アタック ○慣れの運動を行う（ボールに慣れる）。 ・1人直上パス ・レシーブゲームA	○安全で効率の良い学習の仕方について理解させる。 ○学習の見通しをもたせ、主体的に学ぶ意識を高める。 ○楽しいゲームにするために必要な技能について考えさせる。 ◆集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 【関・意・態】
なか ① 4 5 分 × 2	○本時のねらいと学習の流れを確認する。 基本の技を身に付け、ラリーゲームを楽しもう。 ○基本技能の練習を行う。 ・1人直上パス 30秒 ・レシーブゲームA 1分 ・三角レシーブゲームA 3分 ○基本技能を使ったゲーム『ラリーゲーム』を行う。 ・兄弟チームで行う。 ・3対3で行う。 ・サーブは手投げで行う。 ・レシーブはワンバウンドレシーブのみ。 ・セッターは、キャッチした場所から動いてトスをあげて良い。 ・前半（先発メンバー）2分・2分・2分 ・後半（後発メンバー）2分・2分・2分 2分ごとにポジションを1つ移動する。 ○本時の振り返りを行う。 ・学習カードに記入する。	◆ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 【関・意・態】 ○協力しながら用具の準備や場の設定をしている。 ○一つ一つの動きをていねいに行わせる。 ○手の組み方やボールを手のどの部分に当てるかを考えさせる。 ◆レシーブ、トス、アタックなどの基本技能の発揮ができる。 【技能】 ○相手がレシーブしやすいサーブを考えさせる。 ○レシーバーが、落下点やバウンドの大きさを見極め素早く移動するよう助言する。 ○レシーバーは、セッターが取りやすく、次のアタッカーへのトスがしやすい場所へレシーブするよう助言する。 ○アタッカーは、ラリーが続くような易しいアタックをするよう助言する。 ○ラリーが上手く続いたチームを全体で紹介し、そのコツなどを共有する。

なか なか ② 4 5 分 × 2	○本時のねらいと学習の流れを確認する。 得点するために有効なアタックを身に付けよう。 ○エキスパート活動（主にアタック） A：クイックアタック B：フワットとアタック C：フェイントアタック ・ABCに分かれ、各チームで課題となるアタックについて話し合う。 ・実際にボールを扱いながら、技能習得のための練習を行う。 ○試しのゲーム① 『エキスパートラリーゲーム』を行う。 ・ABCをさらに2チームに分ける。 A1とA2、B1とB2、C1とC2 ・3対3で行う。 ・サーブは手投げで行う。 ・レシーブはワンバウンドレシーブで行う。 ・セッターはキャッチした場所からトスをあげる。 ・自分のチームの得点を機に、ポジションをローテーションする。 ・試合時間は8分とする。 ・A1対A2で習得したアタックの方法で得点を競い合う。B、Cも同様に行う。 ・ブロックによる1回での返球あり。 ○本時の振り返りを行う。 ・学習カードに記入する。	◆用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。【関・意・態】 ○ゲームの流れを理解した上で、ラリーを崩すためには、どんな攻撃が有効かを考えさせる。 ○トスをあげるタイミングや高さなどについて話し合っているチームを称賛し他のチームへ広げる。 ◆ネット型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。【思考・判断】 ○エキスパート活動で習得した攻撃を使って、ゲームを行わせる。 ○セッターが、流れを止めないよう、素早くトスをあげるように助言する。 ○練習したことをゲームで生かそうしているチームを称賛する。 ○アドバイスしたり、励まし合ったりしているチームを称賛し、他のチームへ広げる。 ○上手くいったコツなどを発表させ、共有する。
なか ③ 4 5 分 × 2	○本時のねらいと学習の流れを確認する。 自分のチームに合った作戦を考え、ゲームに生かそう。 ○ジグソー活動 ・自分のチームに戻り、習得したアタックの技能を説明する。 ・どんな場面で有効かを話し合い、チームで練習を行う。 ・自分たちのチームに合った作戦を考える。 ○試のゲーム②『杉下チャレンジカップ』を行う。 ・兄弟チームで行う。（1班対2班） ・3対3で行う。 ・サーブは手投げで行う。 ・レシーブはワンバウンドレシーブで行う。 ・セッターはキャッチした場所からトスをあげる。 ・ブロックによる1回での返球もあり。 ・試合時間は10分。 ○本時の振り返りを行う。 ・学習カードに記入する。	○自分の担当したエキスパート活動の説明を分かりやすく伝えている児童を称賛する。 ◆チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。【思考・判断】 ○チームでサインを決めるなど、工夫しているチームを称賛し、他のチームへ広める。 ○よりスピーディーなゲーム展開になるよう声かけをする。 ○プラスの声かけで、ゲームを盛り上げているチームを称賛する。 ◆運動をする場を整備したり用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。【関・意・態】 ○素早く学習カードに記入させる。
ま と め 4 5 分 × 1	○本時のねらいと学習の流れを確認する。 ○まとめのゲーム『杉下リーグ』を行う。 ＊チャレンジカップでの勝敗をもとにトーナメント表を作成。 ・開会式・選手宣誓・競技上の諸注意 ・準備運動とチーム練習・試合開始 ・3対3で行う。 ・サーブは手投げで行う。 ・レシーブはワンバウンドレシーブで行う。 ・セッターはキャッチした場所からトスをあげる。 ・ブロックによる1回での返球もあり。 ・試合時間は10分。 ○本時の振り返りを行う。 ・学習カードに記入する。	◆簡易化されたゲームで、チームの連係による攻撃や守備をするための動きができる。【技能】 ○フェアプレーを心掛けるよう声かけをする。 ○お互いを認め合うような行動や言動があれば称賛し、クラス全体に広める。 ○ゲームの切り替えを素早くさせる。 ○素早く学習カードに記入させる。

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名 : 鶴ヶ島市立杉下小学校

授業者 : 鈴木 奈津子

教材作成者 : 鈴木 奈津子

授業日時	平成27年10月9日(金)	教科・科目	体育
学年・年次	第6学年	児童生徒数	37人
実施内容	ソフトバレーボール	本時/全時数	6/8

授業のねらい(本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)

これまでに学んだことを生かし、チームの特徴にあった三段攻撃がゲームの中で出せることが本時の大きなねらいである。3つのアタック方法については、エキスパート活動の中で、すべての児童がマスターしたわけではない。また、ジグソー活動で伝えただけでは全員ができるようにはならない。「クイックアタックによるタイミングのずらし」「フワッとアタックによるブロックの回避」「フェイントアタックによる位置のずらしから相手の守りを混乱させる」の3つの方法を考え方と捉え、チームの能力やチーム内の個々の能力に合った作戦が立てられること、またそういった作戦を話し合うこと自体を楽しませながら取り組めるようにする。

メインの課題(授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)

チームの特徴に合った作戦で三段攻撃を成功させよう。

児童生徒の既有知識・学習の予想(対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)

課題に対する児童の予想される答え

- ・背の高い児童のブロックにはフワッとアタックが有効である。
- ・同じリズムのラリーが続いたところでクイックアタックを入れ、タイミングをずらすと相手レシーバーが拾いにくいのではないか。
- ・アタッカーがマークされたり、フワッとアタックがなかなか決まらなかったりした場合、フェイントアタックで相手ディフェンスを惑わすことができる。

困難が予想される場面

- ・作戦を実行することが目的となってしまう、状況に応じたプレーができなくなる。
- ・とっさの判断ができる児童が少なく、かみ合わなくなる。

期待する解答の要素(本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれていてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)

- ・スムーズな三段攻撃にするためには、レシーバーがネット際のセッターにしっかりと返球しなければならない
- ・セッターはアタッカーとタイミングを合わせ、丁寧にトスをあげることが大切である。
- ・アタッカーは作戦も大事だが、その場の状況に応じてアタックができるとよい。
- ・作戦を実行するためのチーム内の声かけや学び合いが大切である。
- ・一人一人が作戦を理解し、チームで成功させるために必要な声かけや動きができていることが本時の学習内容を理解していると捉える。

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞	
A：クイックアタック タイミングをずらし、トスが上がると同時にアタックする。 ・実際のネットの高さで、トスの高さを確かめ合い、どの高さが効果的かを考える。 ・ネット際でセッターとタイミングを合わせ、アタック練習をする。 B：フワッとアタック ブロックしてくる相手や身長の高い相手に対し、一発で返されないよう手の上の越すアタックを打つ。 ・ネットの向こう側にブロックを置いて、ブロックを避けるようなアタックの打ち方を練習する。 ・ブロッカーの手を越え、さらに相手レシーバーが拾いにくいアタックにするための打球の強さなどを話し合う。 C：フェイントアタック 左右または前後のダミーアタッカーと連携して、アタックを成功させる。 ・セッターに誰が打つかを伝え、セッターの後ろに回り込んだアタッカーにトスをあげたり、打つふりをしたりした後に本物のアタッカーがその後ろからアタックを打つなどのバリエーションを考える。自分たちにできそうなフェイントを考える。 ・いくつかのパターンで練習し、実践可能かどうかを確かめる。	
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容	
3つのアタック方法を考え方として捉え、自分のチームの能力やチーム内の個々の能力を考え作戦を立てる。ゲームの中で実践し、修正をしながらチームだけの作戦に練り上げていく。	

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
前時	アタック方法について3つに分かれてエキスパート活動をする エキスパート課題を用いたラリーゲーム	自分の分担となるエキスパート活動が、チームに帰って説明できる。
本時	エキスパートで学んだことをチーム内で共有し、作戦を立て、ゲームの中で実行する。	各エキスパートの内容を理解し、自分のチームに合った作戦が立てられる。
次時	前時のゲームの反省をもとに、さらに作戦を練り上げる。前時と違う対戦相手にゲームを行う。	一人一人が自分の役割を理解し、作戦が成功するために声をかけたり動いたりすることができる。

上記の一連の学習で目指すゴール
どの子も自分の役割を理解し、チームに貢献することができる。たとえミスがあっても、他の児童がカバーすることでラリーが続き、チームワークによって得点する楽しさや喜びを全員が味わうことができる。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
7分	※体育係によるコート設営・準備 ・授業が始まる前にビブス着用、その他の準備を行う。 ・集合、整列、挨拶、健康観察 ・準備運動	・黒板に準備の仕方や学習の流れを掲示する。 ・ゲームにつながる練習であることを確認し、丁寧に行わせる。
20分	・本時の学習内容の確認 ・ジグソー活動 ①エキスパート活動の内容を伝えあう A：クイックアタック B：フワッとアタック C：フェイントアタック ②チームに合った作戦を考える ③練習と話し合いを繰り返す	・自分が学んだエキスパートのアタックが実際にできなくても、大切なポイントを伝えるように促す。 ・言葉だけでなく、動きも入れながら伝えさせる。 ・共有した3つのアタック方法をもとに、自分のチームで実践可能な作戦を考えさせる。 ◆チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。【思考・判断②】
10分	・試しのゲーム『杉下チャレンジカップ』 A 対 B C 対 D E 対 F 【ゲームのルール】 ・サーブは手で投げ入れる ・レシーブはワンバウンドレシーブ ・セッターはキャッチした場所からトス ・どちらかの得点を機にローテーション ・ブロックによる1回の返球あり。	・作戦ボードを活用させ、ゲームに出ていない児童が、ゲームに出ている児童に積極的にアドバイスするよう促す。 ・ゲームの中で、うまくいったこと、うまくいかなかったことが何かを考えさせ、次時に生かすようにさせる。
8分	・片づけをする ・整理運動をする。 ・学習のまとめをする。 ・整列・挨拶をする。	・チームに合った作戦とはどんな作戦か、気づいたことなどを発表させる。

グループの人数や組み方

- ・レシーブ技能の事前調査結果と身長、男女比に配慮し、6チーム編成。
- ・7人チーム1班、6人チーム5班。
- ・各班をさらに3つ(ABC)に分け、3つのエキスパート班を編成。
- ・ABCの3チームをそれぞれ2つに分け、6チームに分けてエキスパート活動。

6 エキスパート資料

紙ベースでの資料は以下の内容にメモ欄を付けたものをそれぞれ印刷し、配布した。

その他に、市販の解説書の DVD を観せ、イメージを持たせた。

エキスパート A：クイックアタック
タイミングをずらし、トスが上がると同時にアタックする。
・実際のネットの高さで、<u>トスの高さ</u>を確かめ合い、どの高さが効果的かを考える。 ・ネット際でセッターと<u>タイミング</u>を合わせ、アタック練習をする。
エキスパート B：フワッとアタック
ブロックする相手や身長の高い相手に対し、一発で返されないよう手の上の越すアタックを打つ。
・ネットの向こう側にブロックを置いて、<u>ブロックを避ける</u>ようなアタックの打ち方を練習する。 ・ブロッカーの手を越え、さらに相手レシーバーが拾いにくいアタックにするための<u>打球の強さ</u>などを話し合う。
C：フェイントアタック
左右または前後のダミーアタッカーと連携して相手を惑わせ、アタックを成功させる。
・セッターに誰が打つかを伝え、セッターの後ろに回り込んだアタッカーにトスをあげたり、<u>打つふり</u>をしたりした後に本物のアタッカーがその後ろからアタックを打つなどの<u>バリエーション</u>を考える。自分たちにできそうなフェイントを考える。 ・いくつかのパターンで練習し、実践可能かどうかを確かめる。

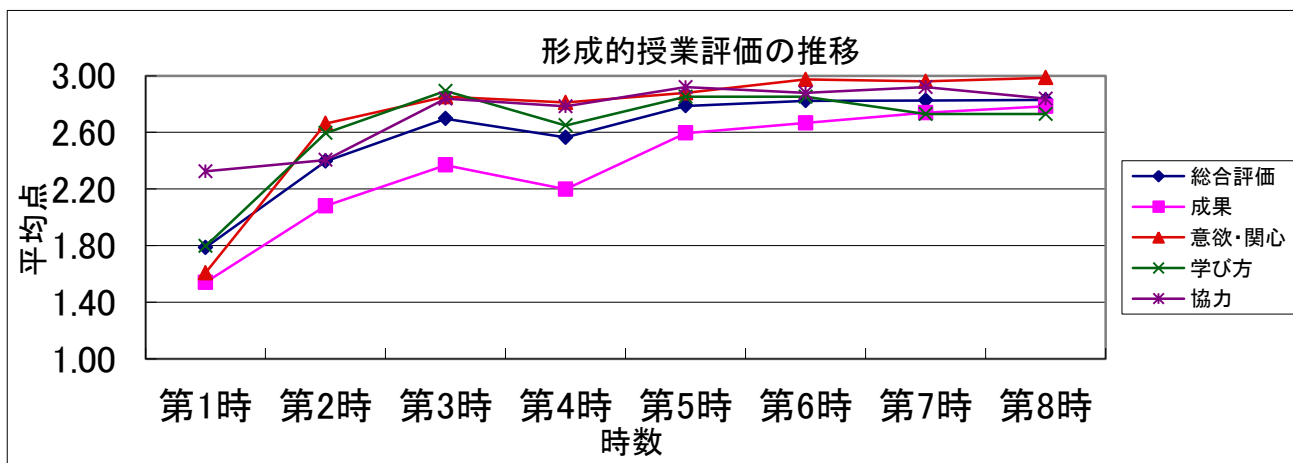
【参考文献】

- ・学校体育実技指導資料 第8集 ゲーム及びボール運動 平成22年3月 文部科学省
- ・小学校体育まるわかりハンドブック 文部科学省
- ・スポーツ・ステップアップ DVD シリーズ バレーボールパーフェクトマスター

黒川貞生 監修 新星出版社

7 成果と課題

【小学校 第6学年 ボール運動（ソフトバレーボール）】



	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時
総合評価	1.79	2.40	2.70	2.56	2.79	2.82	2.83	2.83
成果	1.54	2.08	2.37	2.20	2.59	2.67	2.74	2.78
意欲・関心	1.61	2.66	2.85	2.81	2.88	2.97	2.96	2.99
学び方	1.80	2.59	2.89	2.65	2.85	2.85	2.73	2.73
協力	2.32	2.41	2.84	2.78	2.92	2.88	2.92	2.84

(3点満点)

(1) 成果

- ソフトバレーボールを楽しむために必要な技能やローテーションの動きを学習し、この単元の醍醐味である三段攻撃など理解した上でゲームに生かすための作戦タイムが活発となった。
また、ゲーム中に学んだ三段攻撃が出現するようになった。
- エキスパート活動で学んだ事をチームに持ち帰って伝える際、動きで伝えようとしても、上手く実演できない児童も多かったが、聞いている他の児童が友達の伝えようとしていることを汲み取ろうとよく聞いている様子が伺えた。
- セッターがアタッカーとタイミングを合わせることで、作戦を実行するためにはチームで声を掛け合うことが大切さであると気付いた児童が多く見られた。

(2) 課題

- 3つのアタックでのエキスパート活動は、それぞれのイメージを持たせることが大切だが、今回はそれに対する準備（教師の理解、児童への伝達、エキスパート資料）が十分ではなかった。
- 理解しやすい動画を見せるなど、エキスパート活動で参考になるような資料をもっと用意できると、さらに充実した話し合いになったと思われる。
- 今回は、ゲーム中での技能発揮がクロストークに代わると考えたが、やはり授業の最後に発表の場面を意図的につくり、各班に発表（振り返り）させた方が、自分（チーム）が何を学習したのかが明確となり、整理されたであろう。

(3) 今後の展望

児童にとって、エキスパート活動（3つのアタック方法を知る）を行った上でのジグソー活動（作戦を考える）やクロストーク（ゲームを通して対戦チームの作戦を知る）は、非常に楽しかったらしく、子供たちは休み時間も作戦ボードを取り出し話し合っていた。その点では、子供たちの主体的・協働的な学びを引き出すことは出来たのではないかと思います。今後もさらに実践を積み重ね、より効果的に子供たちの主体的・協働的な学びが形成されるように他の領域や単元でも積極的に取り組んでいきたい。

第 1 学年 3 組 保健体育科学習指導案

平成 27 年 12 月 18 日（金）第 5 校時
 蓮田市立蓮田南中学校 第 1 学年 3 組
 在籍生徒数 男子 19 名 女子 16 名
 指導者 教諭 武士俣 豪志 荒井 貴子 岩見 美紀

1 単元名 「ダンス」（現代的なリズムのダンス）

2 単元について

（1）教材観

ダンスは、「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」で構成され、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流を通して仲間とのコミュニケーションを豊かにすることを重視する運動ある。仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージをとらえて自己を表現したりすることの楽しさや喜びを味わうことのできる運動でもある。今回は、EXILE（エグザイル）の「Rising Sun」という曲を用いて、曲の一部を提示した内容からグループで組み合わせて、発表を行うことで楽しさや喜びを味わう。

（2）生徒観

本クラスは、体育の授業に関して前向きに取り組む生徒が多く、授業規律が定着している。授業では仲間と協力しながら活動をする様子も見られる。しかし、2 学期になると単元の運動種目によって、運動の得意、不得意の差が見られ、集団走などのかけ声も自信がある一部の生徒に限られてきている。ダンスの授業は学習するのが初めての生徒が多いが、関心の高い生徒が多く、授業に対する意欲が伺える。しかしながら、一方では他者からの評価を気にする傾向が強く、感情表現が乏しい生徒も少なくない。体育的学校行事においても練習での力を発揮しきれない場面も多くある。

（体力の実態）＜平成 27 年度新体力テスト結果と平成 26 年度埼玉県平均値との比較＞

1 年		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ
男子	本校	25.82	26.50	45.64	49.68	6'21"63	8"20	182.30	18.52
	県平均	23.93	26.11	41.65	49.22	6'50"15	8"53	181.98	18.20
	比較	○	○	○	○	○	○	○	○
女子	本校	21.54	27.16	46.48	47.57	4'35"02	8"82	168.56	13.60
	県平均	22.01	23.22	45.68	45.45	4'48"65	8"98	167.28	11.96
	比較	×	○	○	○	○	○	○	○

（3）指導観

ダンス（現代的なリズムのダンス）では、「リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせて、リズムに乗って全身で踊ること」が身に付けさせる技能として求められている。したがって、今回は「動きの変化・工夫」に主眼をおいて授業を実践していく。また、その際、「仲間との交流と学び合い」が生まれるように授業展開においても工夫する。そして、人前で踊ることが苦手な本校生徒が人前で堂々と踊り、自由に自分を表現することの楽しさや喜びを味わわせたい。具体的な学習形態としては、協調学習を活用して「動きの変化・工夫」に対する理解が深まり、「仲間との交流と学び合い」が多く発生するよう、「エキスパート活動」、「ジグソー活動」、「クロストーク活動」の各活動の内容を工夫する。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①ダンスに積極的に取り組むとともに、お互いの良さを認め合おうとすることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ②課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【思考・判断】
- ③リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ることができるようにする。【運動の技能】
- ④ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方、関連して高まる体力などを理解することができるようにする。【知識・理解】

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
・ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	・生涯にわたってダンスを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組みを工夫している。	・ダンスの特性に応じて、交流や発表ができるよう、イメージを深めた表現や踊りをするための動きを身につけている。	・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解している。
【学習活動に即した評価規準】			
①ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの違いや良さを認め合おうとしている。 ③健康・安全を確保している。	①グループで協力して、ダンスの振り付けを見付けている。 ②表したいテーマにふさわしいイメージを見付けている。 ③発表や仲間との交流の場面では、互いの違いや良さを指摘している。	①リズムに乗って全身で踊るための動きができる。 ②リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、体を動かすことができる。	①表現のしかたについて、学習した具体例を挙げている。 ②ダンスの名称や用語について、学習した具体例を挙げている。 ③交流や発表の仕方について、学習した具体例を挙げている。

4 指導計画（本時 3／5）

段階	時	学習活動	指導上の留意点
導入	5 0 分 × 1	体と心を弾ませてダンスを楽しもう！ ○授業の流れを理解する。 ○リズム運動 ○動きや振り付けを習得する。	○生徒の見通しを持たせるようにする。 ○ダンスを楽しむために大きな動きをするようにさせる。 ○恥ずかしがらずに踊るようにさせる。 ○段階的に模範をし、確認をさせながら動きを習得させる。 ○特に体のどこの部位を意識して動かすかを理解させる。 ◆ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。【関①】

展開 知識構成型ジグソー法	5 0 分 × 3	「協調学習」仲間と協力し、ダンスを完成させよう！ ○リズム運動を行う。 ○前回までの確認をする。 ●エキスパート活動 ○グループのメンバーがの3つの場に分かれて、それぞれの場での課題に取り組む。 A「ステップ」 ・ウォーク ・バックウォーク ・サイドステップ ・グレイプバイン ・ボックスステップ ・アップ ・ダウン ・トゥループ B「場の工夫」 ・密集 ・分散 ・曲線 ・いくつかの固まり ・V字 ・少数対集団 ・たての列 ・横の列 C「集団の工夫」 ・シンメトリー ・コントラスト ・ユニゾン ・カノン ○学習カードに「分かったこと」を記録する。 ●ジグソー活動 ○エキスパート活動で学んできたことを他のメンバーに伝えて、動きの確認をし、学び合う。 ●クロストーク ○曲の一部を組み合わせて踊るために今までの活動で学んだことをグループで意見を交換し合って活動をする。 ○意欲的に活動できるようにさせる。 ○前回の授業での取り組みを確認させる。 ○小グループに分け、動きを確認し、つまづきがある場合には適宜指導をする。 ○それぞれの場において「エキスパート活動」の課題を提示し、内容を理解させる。 ○学習資料にメモなどをさせながら、動きのポイントに気付かせる。 ○エキスパート活動でグループへの伝達が不安な生徒がいた時は、担当の教師がフォローに入り、ポイントを伝えさせる。 ○協力して活動を行っているグループを賞賛し、積極的に活動に取り組ませる。 ○グループで話し合い、動きながらダンスを組み合わせる。 ◆リズムに乗って全身で踊るための動きができる。 【技①】 ◆表現のしかたについて、学習した具体例を挙げている。 【知①】 ◆グループで協力して、ダンスの振り付けを見付けている。 【思①】
まとめ	5 0 分 × 1	学習の成果を発表しよう！！ ○完成した振り付けを発表し合う。 ○単元の学習の振り返り、学習のまとめをする。 ○発表を行うグループには堂々と発表をさせる。また、踊りやすい雰囲気をつくらせる。 ○特に組み合わせた部分を注目して鑑賞させる。 ◆リズムに乗って全身で踊るための動きができる。 【技①】

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名： 蓮田市立蓮田南中学校

授 業 者：武士侯豪志 荒井貴子 岩見美紀

教材作成者：武士侯豪志 荒井貴子 岩見美紀

授業日時	平成 27 年 12 月 18 日 (金)	教科・科目	保健体育
学年・年次	第 1 学年	児童生徒数	35 人
実施内容	ダンス	本時／全時数	2／5

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につながるために行うか）
本時のねらいは、「仲間と協力し、ダンスを完成させよう！」である。それぞれのエキスパートを作り、意図的に学び合う場面を設定し、コツや工夫を発見・共有し、ダンスの技能や知識を高めさせたい。その活動を通して、グループで振り付けを考え、ダンスを完成させることで達成感を味わわせたい。
メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題） 「仲間と協力し、ダンスを完成させよう。」
児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対しどの程度の答えを出そうか。また、どの点で困難がありそうか。） ダンスの授業をはじめて行う生徒が多いので、ダンスの知識はないと思われる。初めて知ることが多いので課題のコツを掴むことに時間がかかりそうである。また、知識として理解はできても体を使って仲間に伝えることは難しいと思われる。
期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになりたいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準） ステップは動きのポイントや体の部位を意識して動かすことできる。場の工夫では、グループの特性を生かして、目立つように演出したり、また全員が堂々と踊れるように工夫することできる。集団の工夫では、同じステップでも集団で動くことで見せ方が違うことに気づくことできる。以上のことを踏まえて、組み合わせた部分にグループの特色が出ると良い。
各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出ために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞ A「ステップ」 ポイント：自分の体を意識し、動きのコツを掴む。 B「場の工夫」 ポイント：複数で踊ることからグループの特色を生かした場の工夫を見つける。 C「集団の工夫」 ポイント：個人やグループを引き立てられるような集団の工夫に気づく。
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容 8×4の動きをステップ、場、集団からグループで話し合い、振り付け、発表まで進める。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
前時	ダンスの授業1回目として授業の流れ、共通して踊るダンスの振り付けを覚える。	ダンスに意欲的に取り組むことができる。
本時	協調学習（エキスパート活動、ジグソー活動）を行い、グループで学び合いをする。	個人が学んだこと、身につけたことをグループ毎に共有できる。
次時	協調学習を経て、グループで振り付けを考え、練習をする。	積極的に意見交換をし、体を動かしながら振り付けを完成させる。
今後	発表会を行う。	グループの特色を生かして堂々と発表ができる。

上記の一連の学習で目指すゴール
自己や仲間と協力しながら、ダンスを完成させ、発表をすることで達成感を味わわせたい。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
10 分	<導入> 1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 リズム運動、前回までの振り付けの確認 <課題提示>	○素早く集合させ、元気の良い挨拶をさせるようにする。 ○生徒の体調を確認する。 ○心を弾ませて動くことを意識させ、踊りやすい環境を作るように声かけをする。
仲間と協力し、ダンスを完成させよう！		
10 分	<エキスパート活動> 1 ステップ ・ウォーク ・バックウォーク ・サイドステップ ・グレイプバイン ・ダウン ・アップ ・ボックス ・トゥループ 2 場の工夫 ・密集 ・曲線 ・V字 ・縦 ・分散 ・いくつかの固まり ・少数対集団 ・横 3 集団の工夫 ・カノン ・ユニゾン ・シンメトリー ・コントラスト ・ハーモニー	○掲示資料や学習カードにそれぞれの動きのポイントを書き込み、自分の言葉でグループの仲間に伝えられるようにさせる。 ○生徒がイメージしやすい例を挙げながら指導をする。 ○実際に体を動かしながらエキスパート活動を行う。 ○ジグソー活動では、巡回をしながら各教師が必要であれば補足やアドバイスを行っていく。
15 分	<ジグソー活動> エキスパート活動で学習したことを自分のグループに教え、取り組む。	◆表現のしかたについて、学習した具体例を挙げている。【知識・理解①】 ◆グループで協力して、ダンスの振り付けを見付けている。【思考・判断①】 【努力を要する生徒への手立て】 自分の言葉で説明をさせながら、補足やアドバイスを適宜入れられるようにする。 【十分満足と判断できる生徒への発展的な内容】 エキスパート活動で学んできた内容を、ジグソー活動のグループ活動でさらに工夫させ取り組ませる。
10 分	<クロストーク> グループでダンスの振り付けを考える。	
5 分	<活動の振り返りとまとめ> 1 学習のまとめをする。 2 次時の予告・挨拶	

グループの人数や組み方

- ・エキスパート活動・・・12人×3グループ
- ・ジグソー活動・・・・・・6人1グループが6グループ

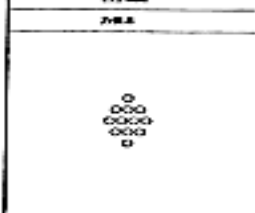
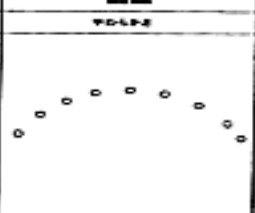
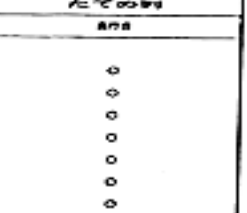
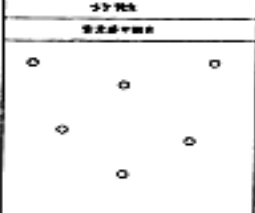
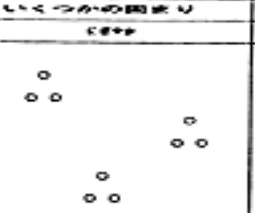
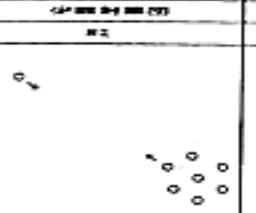
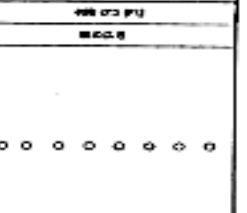
6 資料

エキスパート資料 A

ステップ一覧	
1 ウォーク	2 バックウォーク
3 サイドステップ	4 グレーブバイン
5 ボックスステップ	6 アップ
7 ダウン	8 トゥルーフ

エキスパート資料 B

場の使い方

円形 周回	扇形 周回	V字	円形 中心
円周上	円周上	円周上	円周上
			
円形 中心	扇形 中心	円形 中心	円形 中心
円周上	円周上	円周上	円周上
			

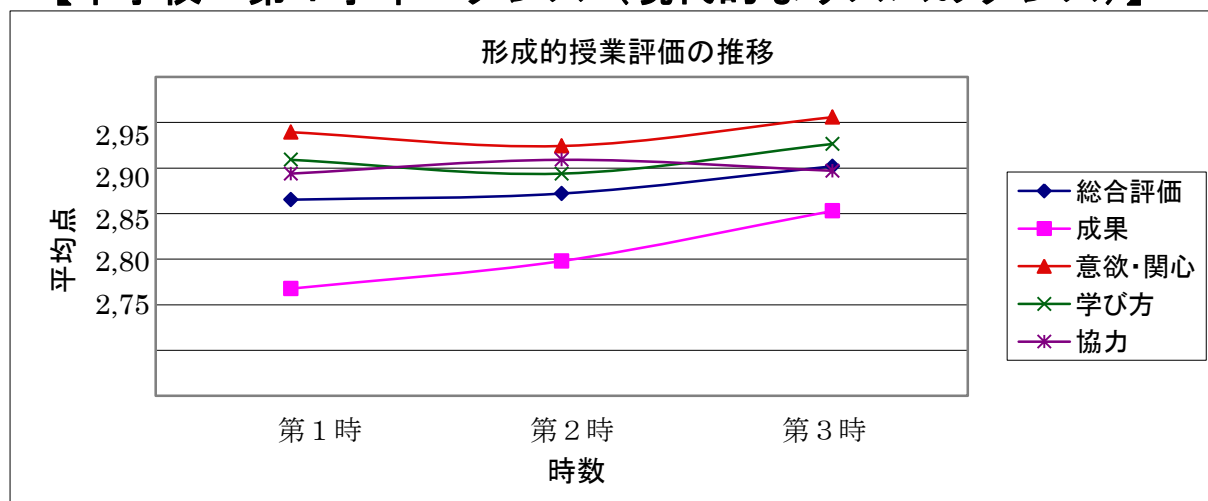
エキスパート資料 C

集団の動きの工夫（対応）

シンメトリー	コントラスト	ユニゾン
○対称な動きを、すっきりとした動きにする。 ○動きの中心を、動きの中心にする。 	○動きの中心を、動きの中心にする。 ○動きの中心を、動きの中心にする。 	○動きの中心を、動きの中心にする。 ○動きの中心を、動きの中心にする。 
ハーモニー	カノン	
○動きの中心を、動きの中心にする。 ○動きの中心を、動きの中心にする。 	○動きの中心を、動きの中心にする。 ○動きの中心を、動きの中心にする。 	

7 成果と課題

【中学校 第1学年 ダンス（現代的なリズムのダンス）】



	第1時	第2時	第3時
総合評価	2.87	2.87	2.90
成果	2.77	2.80	2.85
意欲・関心	2.94	2.92	2.96
学び方	2.91	2.89	2.93
協力	2.89	2.91	2.90

(3点満点)

(1) 成果

- ①ジグソー活動では、エキスパート活動で学んだ生徒が自分のチームに教え合うことで、より主体的に活動する場面が多く見られた。
- ②エキスパート活動、ジグソー活動の場面では、活発に話し合いをする様子が見られた。特に、普段の授業では目立たない生徒の活躍の場を意図的に作ることができた。
- ③仲間と協力し、ダンスを完成させるという授業のねらいが達成でき、発表会ではどのグループも考えた動きを披露することができた。

(2) 課題

- ①話し合い活動という部分では活発に活動できてはいたが、今回の授業が適切なジグソー活動だったのかと言うと疑問も残った。ジグソー活動が単なるA+B+Cになってしまい、広がりや発展には結びつかなかった点もあった。
- ②教師が準備したエキスパート活動の内容が、課題解決に適切な資料かどうかを検討する必要がある。
- ③意図的・計画的に授業を行う必要があり、他の教員(TT)に授業の意図を正確に伝えることができなかった。

(3) 今後の展望

今回、協調学習の取組みを体育の授業で行ってみて、教師が生徒の動きの変化を感じることができた。それはダンスの単元を学習することが初めての生徒が多かったからだと思う。他の単元でどのような協調学習ができるのか引き続き、研究していきたい。

今後、保健体育授業で協調学習の広がりを考える時、協調学習を十分に理解していない教員への研修機会や取り組みやすい領域等の整理をしておく必要がある。

運動が苦手な生徒や自分を表現することが苦手な生徒にとっても、保健体育授業が楽しく、身に付くことがあったと感じられる授業を今後も模索していく。

第2学年5・6組 保健体育科学習指導案

平成27年11月30日(月) 第5校時
戸田市立新曽中学校 2年5・6組
在籍生徒数 女子39名
指導者 教諭 矢作 有希

1 単元名 「陸上競技」 (走り幅跳び)

2 単元について

(1) 教材観

走り幅跳びは、巧みに体を操作しながら合理的で心地よい動きを身につけ、自己の目指す記録を達成する運動である。また、仲間と走の「速さ」や「タイム」、跳躍の「距離」「高さ」を競い合うことの楽しさや喜びを味わうことのできる運動でもある。

走り幅跳びは、筋力や身長等の体力差が記録に直結しやすい。したがって、他者との記録の競争だけに終始してしまうと体力値の低い生徒や運動有能感の低い生徒はつまらないと感じ易い。したがって、各自の能力に応じた課題設定や設定した課題を解決するための工夫等に主眼を置く授業を展開し、自己の成長を実感させることが重要である。

(2) 生徒観

指示された事には素直に取り組む生徒が多い。また、準備や片付け等も用具係や体育委員を中心に自主的に行う様子が伺える。運動能力や体力についてはやや差があり、幼少期からの運動経験や機会の不足があると考えられる。

今年度の新体力テストの結果(2年生)

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	持久走 (秒)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ハンドボール 投げ(m)
男子	県平均H26	29.75	30.56	46.68	52.94	376.25	7.89	199.69	21.62
	新曽中H27	▼26.86	▼28.93	▼42.53	▼52.74	▼ 391.60	▼7.96	◎ 202.11	▼18.81
女子	県H27	24.82	26.82	48.99	47.26	276.27	8.65	174.47	13.69
	新曽中 H27	▼22.92	▼24.83	▼45.32	▼46.85	▼ 288.92	▼8.74	◎ 176.91	▼11.60

※ ◎：県平均よりも上回っている項目 ▼：県平均よりも下回っている項目

(3) 指導観

陸上競技(走り幅跳び)で身に付けなければならない運動技能は、「スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと」である。そこで、走り幅跳びを「助走と踏み切り」、「空間姿勢」、「着地」の3つの運動局面からアプローチし、生徒の理解がより深まり、技能向上に結び付き易い授業を展開する。また、記録の向上や運動構造の理解を通して幅跳びの楽しさや喜びを味わわせる。そして、協同学習を活用することによって、「仲間と学び合う学習」を展開させ、関わり合いの中で運動に対する意欲を高めたい。具体的には、エキスパート活動として上記に挙げた3つの運動局面をそれぞれ理解させ、ジグソー活動を通して走り幅跳び全体のイメージを子供たち同士の教え合いを通して身に付けさせる。また、クロストーク活動では、「運動のコツ」や「自己に適した跳び方」が発見できるように授業展開を工夫する。あわせて、担当する役割を果たしたり、安全に気を配ったりするような集団への貢献に関する態度の醸成を図りたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

①仲間と励まし合いながら協力して学習を進め、公正な態度で健康・安全に留意した活動ができるようにする。

【関心・意欲・態度】

②課題解決のための効果的な練習の仕方を選べるようにする。

【思考・判断】

③記録に挑戦したり、競い合いながら自分の能力に適した課題をつかみ、技能や記録を伸ばせるようにする。【運動の技能】

④自分や仲間の能力に合った課題の選び方と課題解決のための効果的な練習の仕方を理解できるようにする。【知識・理解】

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
・陸上競技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に留意して学習に取り組もうとしている。	・陸上競技を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	・陸上競技の特性に応じた、基本的な動きや効率の良い動きを身に付けている。	・陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。
【学習活動に即した評価規準】			
①仲間と教え合ったり助け合ったりして、学習に積極的に取り組もうとしている。 ②仲間の学習を援助しようとしている。	①合理的な運動のコツや工夫を見付けている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③互いの運動に対して適切な助言をしている。	①走り幅跳びの基本的な動きができる。 ②走り幅跳びの効率的な動きができる。	①走り幅跳びの意義について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。 ②走り高跳びの行い方について、学習した具体例を挙げている。 ③運動の計画の立て方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。

4 指導計画（本時 3 / 7 ）

段階	学習活動	指導上の留意点（指導○、評価規準◆）
はじめ 5 0 分 × 1	走り幅跳びの意義を理解し、学習の見通しをもとう！	
	○走り幅跳びの意義を理解する。 ○学習のねらいや進め方を理解する。 ○学習カードの使い方を知る。	○単元の目標やねらい、走り幅跳びの特性や学習の進め方、学習資料の活用方法、評価について理解させる。 ○身体的な体力向上のためだけの運動ではなく、「友達から教わったり、自分で考えたりして記録が向上した」「友達と関わり合う中で上達した」という実感が持てるような授業を目指していくことを伝え理解させる。 ◆走り幅跳びの意義について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。【知①】
なか ① 5 0 分 × 3	「協調学習」仲間と協力し、運動のコツや工夫を見付けてチームの記録を伸ばそう	
	◎エキスパート活動 ○グループのメンバーが「助走・踏み切り」「空間動作」「着地・足合わせ」の3つの場に分かれ、それぞれの場での課題に取り組む。 ○学習カードに、課題の対しての「分かったこと」を記録する。 ◎ジグソー活動 ○エキスパート活動で学んできたことを他のメンバーに伝えたり、運動しながら確認しながら、記録が伸びるような跳び方を学ぶ。	○それぞれの場において「エキスパート活動」の課題を提示し、運動のねらいをもたせる。 ○提示資料や学習カードに、動きや課題解決のヒントになるポイントを載せ、意識して取り組めるようにする。 ○それぞれの運動の場で、課題の解決に向けた取り組みがなされているか、運動のコツや工夫に気付くことができるよう発問や助言を行い、思考を誘導していく。 ○生徒側からの気付きや工夫を積極的に広め、実感させ、全体へ共有・発展させる。 ○一生懸命な生徒、協力し合っている生徒を積極的に称賛するとともに、記録や動きが高まった要因を発問することで、学んで身に付けてきたコツを実感させる。 ○上手く伝えられない生徒のいるグループでは、教師が進行役となり示範し、ポイントを伝えられるようにする。 ◆仲間と教え合ったり助け合ったりして、学習に積極的に取り組もうとしている。【関①】 ◆合理的な運動のコツや工夫を見付けている。【思①】 ◆仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。【思②】 ◆走り幅跳びの基本的な動きができる。【技①】
なか ② 5 0 分 × 2	教え合った動きを工夫しながら、距離を伸ばすためのコツを見付けよう	
	○学んだ動きを定着させる。 ・正しい動きは必ず記録の伸びにつながることを理解させ、より良い動きで跳べるよう、練習する。	○これまで見付けてきた動きのコツや工夫の仕方を基に、動きが定着するようにさせる。 ○グループ（ペア）で活動させ、仲間と協力し励まし合いながら運動させる。 ○グループ（ペア）ごとに、安全に留意しながら協力して場を準備させる。 ◆仲間の学習を援助しようとしている。【関②】 ◆互いの運動に対して適切な助言をしている。【思③】 ◆走り高跳びの行い方について、学習した具体例を挙げている。【知②】 ◆走り幅跳びの効率的な動きができる。【技②】
まとめ 5 0 分 × 1	記録会によって、記録の伸びを確認しよう！	
	○記録会を行い、計測する。 ○単元の学習を振り返り、学習のまとめをする。	○記録の伸びを実感する。 ○協調学習で取り組んだ事（学び合い、伝え合い）が、体育の授業でも大切であることを再確認させる。 ◆運動の計画の立て方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。【知③】

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名：戸田市立新曽中学校

授 業 者：矢作 有希
教材作成者：矢作 有希

授業日時	平成27年11月30日 (月)	教科・科目等	保健体育
学年・年次	第2学年	児童生徒数	39人
実施内容	陸上競技 走り幅とび	本時/全時数	3/7

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいのか、この後どんな学習につながるために行うか。）
本時の授業のねらいは、「仲間と協力し、運動のコツや工夫を見付けてチームの記録を伸ばそう」ということである。意図的に学び合う場面を設定し、遠くに跳ぶためのコツや工夫を発見し、共有していく活動を通して、仲間同士で達成感を味わわせたい。 メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題） 走り幅跳びの技能構造を知り、仲間と共に技能を高め合おう。 児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。） 助走から踏み切り、空中動作、着地の能力について、それぞれの運動のコツをつかむ。運動のコツみたいなものはつかめても、それを言葉にして仲間に伝えるということに困難を感じる生徒は多いと思われる。課題に対してのコツを発見し、仲間に伝えるとともに、さらに運動の工夫や組み合わせについても考えさせ、取り組みたい。 期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、答えに含まれていてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準。） 助走スピードを生かして素早く踏み切ることが大切であるに気付いて欲しい。助走では、踏み切りが合うように、歩幅等を逆算し合わせていくことが大切である。足が合わない場合は、短い距離から助走を始めると良いことに気付かせたい。空間動作は、手と足の連動が必要になる。高く飛ぶと距離が出ないし、低いとすぐに着地してしまうので自分の助走距離に合わせた高さを見付けて欲しい。着地については、体重が後ろに残ってしまうと後ろに倒れてお尻をついてしまうことになるので、腕で勢いをつけ、前に倒れるようにさせたい。 各エキスパート 〈対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください〉 A助走・踏み切り：スピードに乗った助走が、長い距離を跳ぶためには必要である。 B空間動作：ロイター版を使用し、ある程度高く跳び、空間にいる時間を長くする。 C着地・足合わせ：ゴム紐等を使用し、紐に引っかからないように着地する。 ジグソーで分かったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容 より有効な運動となるような工夫、コツをつかむためのエキスパート、ジグソー活動を活発に行う。「仲間に合う適切な動きを伝え合い、記録を伸ばすこと」をねらいとする。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい目安
前時	協調学習（エキスパート）でそれぞれの課題に取り組む A 助走・踏み切り B 空中動作 C 着地	動きのコツや運動の工夫の仕方を見つけている。
本時	エキスパート、ジグソー活動を経て、3つの運動の仕方を工夫して取り組み、長い距離を跳ぶための自分に適した跳び方を見付ける。(ABC) A 助走・踏み切り B 空中動作 C 着地	自己や仲間の現段階の技能に応じ、運動の仕方を工夫している。
次時	3つの運動をさらに工夫し、仲間に合った動き方を教え合い、取り組む。(ABC)	自己や仲間の課題や状態に応じ、運動の行い方を適切に選んでいる。

上記の一連の学習で目指すゴール
自己や仲間と協力しながら、自分たちに合った運動方法を見つけたり、コツを発見したりして、仲間との共同感を味わわせたい。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
6分	<導入> 1 集合、整列、挨拶、健康観察を行う。 2 準備運動を行う。 ・ランニング、体操、補強運動 <課題提示>	○素早く集合させ、元気のよい挨拶で学習がスタートできるようにする。
仲間と協力し、運動のコツや工夫を見付けてチームの記録を伸ばそう		
10分	<エキスパート活動> 1 助走・踏み切り 2 空間動作 3 着地・足合わせ	○掲示資料や学習カードに動きや課題解決のヒントになるポイントを載せ、いつでも意識して取り組めるようにする。 ○前時のエキスパート活動で上手くいった点やそうでなかった点をエキスパート班で確認する。 ◆合理的な運動のコツや工夫を見付けている。 【思考・判断①】
24分	<ジグソー活動> エキスパート活動で学習したことを自分のグループに教え、取り組む。	【努力を要する生徒への手立て】 自分やグループに合った条件と一緒に検討し、自分の担当した運動に自信を持ってグループに提案できるようにアドバイスする。
5分	<クロストーク> 取り組みの実践例や感じたことなどを全体の前で発表し合う。	【十分満足と判断できる生徒への発展的な内容】 エキスパート活動で学んできた内容を、ジグソー活動のグループでさらに工夫させ取り組ませる。
5分	<活動の振り返りとまとめ> 1 学習のまとめをする。 ・手本となるグループの紹介 ・学習カードに記録を記入 2 後片付け、整理運動をする。 3 次時の予告・挨拶	○ジグソー活動で動きに高まりの見られたグループを紹介し、動きのコツや運動の工夫を学び合わせる。 ○協調学習で学んできたことを次時からの学習に生かし、チームでさらに動きを高めていけるよう意欲化を図る。

グループの人数や組み方
・エキスパート活動・・・13人×3グループ ・ジグソー活動・・・・・・6、7人×6グループ ・欠席者がいた場合は適宜グループを調整するが、エキスパート活動、ジグソー活動ともに2人以下にならないようにする。

エキスパート A

助走・踏み切り

ポイント 助走から踏み切り

よりかえし練習して踏み切りに合った助走距離をみつけよう。
踏み切り直前の最高スピードが出せる距離を見つける。

助走は3歩と決めれば、
踏み切り直前に足元をのぞいて、1、2、3、4、5と
1歩の力強い助走から走る。

踏み切り直前の足元1、2、3は
すばやく踏み込んで踏み切る。

Point 踏み切りのポイント



かかとが入り足裏全体で踏み切る。



踏み切り直前にかかとが入り足裏全体で踏み切る。助走の距離をみつけて、踏み切り直前に最高スピードが出せる距離を見つける。

踏み切り直前にかかとが入り足裏全体で踏み切る。

ポイント いろいろと工夫をして練習しよう

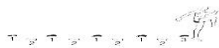
1 リズミク

踏み切り直前に1歩足を2歩として、心の中で1、2、3、4、5とリズムを数えながら走る(ジョギング程度でよい)。



2 リズミク

1の力強い時々1、2、3を入れて、軽く踏み切ってはすんでみる。



3 入道助走跳躍(5〜7歩)

助走までの踏み切り、跳躍練習(1、2、3)をすばやく踏み切ったで踏み切る。



4 中助走跳躍(8〜11歩)

中助走の助走までの踏み切り、跳躍練習(1、2、3、4、5)は比較的速く走り、後半の3歩(1、2、3)はすばやく踏み切ったで踏み切る。



ポイント 踏み切りのイメージ

踏み切り直前は、助走を助走と見なして、踏み切ったで踏み切る。



出典：新学社 WONDERFUL SPORTS

エキスパート B

空間動作

かがみとび

初級者向き。距離をとるためには「かがみとび」「はきみとび」を覚えよう。



そりとび(空中動作→落地)



出典：新学社 WONDERFUL SPORTS

エキスパート C

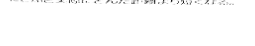
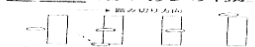
着地・足合わせ

ポイント 効果的な着地の練習

低いバレーやゴキブリも使ってどきこえ、より速くに着地する練習をする。
着地点より後ろに手をついたり尻もちをついたりしないよう練習しよう。



ポイント 踏み切りの判定



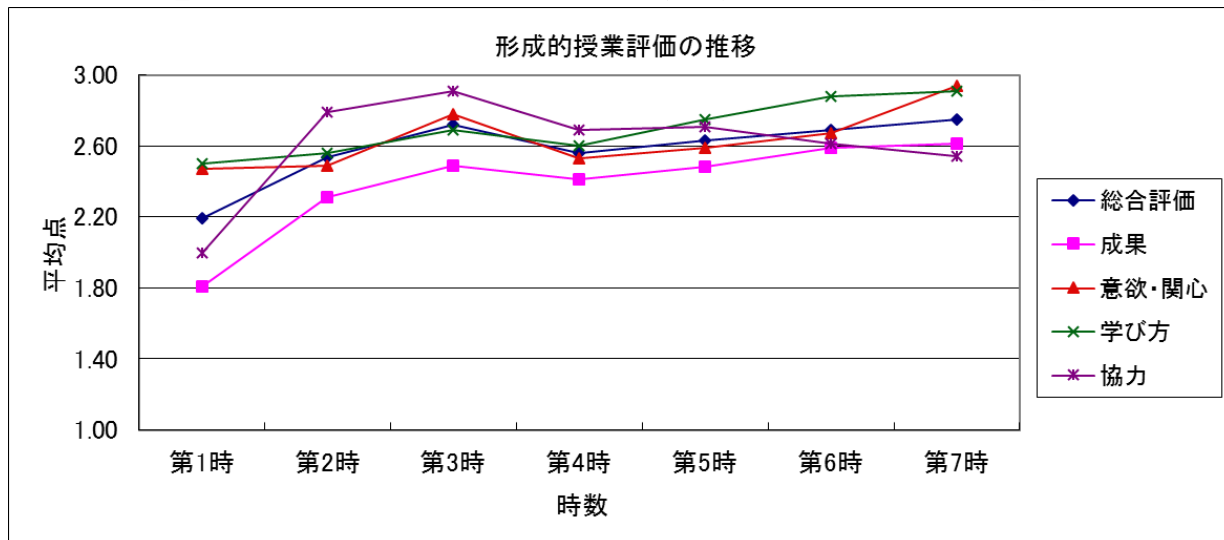
ポイント 有効な着地、無効になる着地



出典：新学社 WONDERFUL SPORTS

7 成果と課題

【中学校 第2学年 陸上競技（走り幅跳び）】



(3点満点)

(1) 成果

- ①教え合いの活動が増え、生徒同士がお互いを認め合う時間が増えたため、自己肯定感の向上につながった。
- ②チームでの記録の伸びを評価項目の1つとしたため、チーム内での教え合いが活発になった。
- ③運動の苦手な生徒でも、自分の役割（エキスパート活動）を持たせているため、授業に対して主体的に活動できるようになった。
- ④距離を伸ばすためには、助走・踏み切り、足合わせ等も大事であることが授業を重ねる毎に理解し、4・5時間目では助走・踏み切り、着地・足合わせのエキスパート班も活躍することで、どのチームも記録が向上した。

(2) 課題

- ①場の工夫が必要だった。砂場をどのように区切って、活動をさせるかを明確にする。場が狭いので、たくさん道具が置くことができなかった。
- ②生徒にとっては空間動作が一番楽しいようで、ジグソー活動では、空間動作がメインになってしまう班があった。

(3) 今後の展望

- ①室内で、セーフティマットを使っでの練習も出来るのではないかな。
- ②運動の得意な生徒、苦手な生徒、それぞれ誰をどこのエキスパートに入れるかを明確にしたい。
 - 得意な生徒 助走・踏み切り、空間動作
 - 苦手な生徒 着地・足合わせ

第3学年2・3組 保健体育科学習指導案

平成27年9月18日（金）第4校時
川島町立西中学校 3年2・3組
在籍生徒数 男子34名 女子26名
指導者 教諭 遠藤 和宏
教諭 青柳 陽亮

1 単元名 「器械運動」（マット運動・跳び箱運動）

2 単元について

（1）教材観

器械運動は、器械器具の特性から導き出される技を目標に「できる」「よりできる」ことの喜びを味わう達成型スポーツである。また、運動学的視点で技の成否を客観的に理解し易い。したがって、運動の合理的な仕方を学ばせ易い運動でもある。

マット運動では、回転系や巧技系の技を身につけ、自己に適した技で演技することのできる楽しさや喜びを味わう運動である。

跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の技を身につけ、自己に適した技で演技することのできる楽しさや喜びを味わう運動である。

運動の楽しさの要因	運動を遠ざける要因
○自分でいろいろな技に挑戦することができる。 ○技ができたときに喜びを味わうことができる。 ○技の完成に向けて、仲間と協力して活動することができる。 ○回ったり、逆さになったり、非日常的感觉を体験することができる。	○技がうまくできない。 ○回ったり、逆さになったりすることが怖い。 ○首が痛くなったり、怪我をしたりしそうで怖い。

（2）生徒観

生徒は明るく元気であり、あいさつや返事を大きな声で行うことができる。集合も早く、チャイムと同時に授業を開始することができる。体育委員や体育係の生徒はもちろん、その他の生徒も用具の準備や片付けを率先して行う。運動が得意な生徒も苦手な生徒も意欲的に協力しながら活動することができる。

本学年の生徒は、1年時にマット運動を行っているため、前転や後転の基本的な技から倒立前転など少し発展した技まで経験している。2年時には跳び箱運動を行っており、基本的な技から前方倒立回転跳びなど、発展技まで経験している。しかしながら、マット運動・跳び箱運動ともに苦手と感じている生徒は多い。

○体力の実態（3学年） ※県平均は平成27年度

項目		握 力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	5 0 m走	立ち幅跳び	ハンドボール投げ
男子	本校平均	34.59	28.00	46.94	52.04	5'59	7,65	203.43	23.00
	県平均	35.19	32.92	50.57	55.37	6'04	7,50	214.08	24.52
	比較	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼
女子	本校平均	25.14	21.14	44.76	45.06	4'32	8,81	169.06	12.06
	県平均	26.22	27.93	51.18	47.73	4'39	8'59	177.25	14.73
	比較	▼	▼	▼	▼	○	▼	▼	▼

〈新体力テストからみた実態〉

男女ともに、持久走以外の項目で県平均を下回っている。3学年の3年間の体力の推移を見ると、体育の授業で補強運動に取り組んだり、運動部活動を中心に一生懸命練習に励んできた結果、毎年少しずつではあるが県平均との差は縮まってきた。持久走は今年初めて県平均を上回ることができた。2年間の長距離走の授業を通して、理想のフォームや呼吸の仕方、ペース配分等を学習してきたことが、今年の結果につながったと考える。今後の体育的活動で、より体力が向上するよう、正しいランニングフォームや筋力トレーニングの方法などを学ばせていきたい。

(3) 指導観

器械運動の面白さは、自分の技の出来栄を高めていく過程にある。しかしながら、技の成否がはっきりと表れる運動だけに嫌いと感じる生徒も少なくない。そこで、今回は個人種目である器械運動を「集団演技」という授業形態で実施する。個に応じた技の設定と、それらを組み合わせたチームとしての活動を通して得意な生徒と苦手な生徒が共に学び合うことを通して集団的達成感を味わわせることを一番のねらいとする。また、安全面への配慮についても生徒自身に思考させ、自ら安全に留意する態度を育てることができるよう配慮する。その際、生徒への言葉がけや場の工夫にも努めたい。そして、「集団演技」と「協調学習」を通して仲間と関わり合い、教え合いが運動構造の理解を深め、生徒全員の技能向上につなげていきたいと考える。

授業展開を通して器械運動に対するこれまでのイメージを覆し、生徒が積極的に難しい技に挑戦する授業にしたい。そのために、協調学習を効果的に活用したい。なお、協調学習の実施にあたっては、学習過程や実施時期等の授業計画を工夫し、効果的な活用方法を模索していきたい。

3 単元の目標及び評価規準

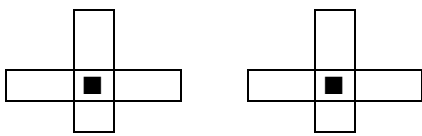
(1) 単元の目標

- ①自主的に取り組み、仲間と互いに協力し、教え合いながら活動し（協調学習）、健康・安全を確認しながら練習や発表会を行うことができ、よい演技を演じることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ②自己やグループの課題に応じた運動の行い方や練習の仕方を考え、工夫することができるようにする。【思考・判断】
- ③自己に適した技を滑らかに安定して行い、発展技に挑戦し、仲間と動きを合わせて演技することができるようにする。【運動の技能】
- ④技の名称や技術的なポイントを理解し、自己の演技や仲間の演技の学習の成果を高めることができるようにする。【知識・理解】

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元の評価規準	器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、良い演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなど、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。	器械運動を豊かに実践するための学習課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じた技を身に付けている。	器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力を理解している。
学習活動に即した評価規準	①技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技をしようとしている。 ②自主的に取り組もうとしている。 ③仲間の良い演技を賞賛しようとしている。 ④互いに教え合い、補助し合いながら課題に取り組もうとしている。 ⑤練習場所の安全を確認して、技に挑戦している。	①技のポイントを見つけている。 ②自己の課題を解決するための適切な練習方法を選んでいる。 ③仲間の動きと自己の動きを互いに指摘し合いながら合せている。	①滑らかに安定して演技することができる。 ②仲間と動きを合わせて演技することができる。	①技の名称や技術的なポイントを書き出すことができる。 ②演技構成や発表会の仕方について書き出すことができる。 ③学習の成果を高めるための運動の仕方の具体例を挙げている。

4 指導計画（本時 4 / 1 2 ）

段階	学習活動	指導上の留意点（指導○・評価◆）
はじめ 50 × 1	運動の特性を理解し、単元の見通しを持つ。 ○ オリエンテーションⅠ ・学習のねらいと進め方を確認する。 ・グルーピングと役割分担（種目選択）をする。 ※グループの中で、マット運動と跳び箱運動を選択させる。 ・学習カードや学習資料の使い方を理解する。 ・準備運動、補強運動、整理運動の仕方を確認する。 ・学習の見通しを持つ。	○マット運動と跳び箱運動の特性や学習のねらいを理解させる。 ○グループ内での協力や教え合いが大切であることを理解させる。 ○学習カードや資料の活用方法について理解させる。 ○準備の手順、授業の流れ、安全な活動の仕方など授業の約束について理解させる。 ◆技の名称や技術的なポイントを理解している。 【知①】
なか ① 50 × 2	ねらい① 基本的な技が滑らかにできるようにする。 ○本時のねらいを知り、学習の見通しを持つ。 ○基本練習を行う。 前転・後転・開脚前転・開脚後転を3回ずつ行う。 ○課題解決練習Ⅰ ①基本技の確認をする。 ②発展技に挑戦する。 ③見せ合いをする。 仲間どうしで技を見せ合い、練習した技の技能を評価し合う。	○本時のねらいを確認させる。 ○基本練習を行わせる。 ○課題解決練習Ⅰを行わせる。 ○できる技は、より滑らかに行わせる。 ◆技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技しようとしている。 【関①】 ◆練習場所の安全を確認して技に挑戦している。 【関⑤】 ○個々の技能に合わせて、発展技に挑戦させる。 ◆滑らかに安定して演技することができる。 【技①】 ○技の見せ合いをして、技のできばえをお互いに評価させる
なか ② 50 × 8	ねらい② 発表会にむけて構成・演技の仕方を理解し、考え、練習する。 ○オリエンテーションⅡ 学びあい活動（協調学習） ●エキスパート活動 A：マット・跳び箱の使い方（例）  跳び箱 ・跳び箱を中央に、その周りに4枚マットを置く。 ・跳び箱の高さを途中で変えてもよい。 ・演技中にロイター板の出し入れをしてもよい。 ※跳び箱やロイター板の出し入れによって、演技の流れが途切れないように気をつけること。 B：演技時間・1人の演技量 【演技時間】 ・演技時間は1分30秒 マット運動 ・「はじめ—なか—おわり」の連続技を3回以上行うこと。 ・きれいに（膝・つま先が伸びている）、流れるような演技（技と技のつながりがスムーズ）を目指すこと。 ・前方倒立回転とびは1回の演技で、「はじめ—なか—おわり」の連続技と同じ扱いにしてもよい。	○発表会にむけて学びあい活動（協調学習）を行わせる。 ○発表会の演技構成の仕方を理解させる。 ○グループ毎に、A・B・Cの3グループに分けさせる。 ○エキスパート活動で、発表会に向けての演技構成や発表の仕方についてエキスパートを育てる。 A：マット・跳び箱の使い方のエキスパート B：演技時間・一人の演技量のエキスパート C：採点項目のエキスパート ○エキスパート資料を読み込ませる。 ○マット・跳び箱の使い方を理解させる。 ○演技時間・1人の演技量について理解させる。

跳び箱運動 ・3回以上技を行うこと。 ・空中姿勢を整え、きれいな着地を目指すこと。 共通事項 ・難易度の高い技を取り入れた方が良いが、自己の能力に応じた技を選ぶこと。 ・演技の最初と最後にはしっかりポーズをとること。 C：採点項目 ○リズム・流れ 演技と演技のつながりがスムーズか。 ○演技の工夫 演技と演技の組み合わせ方、場の構成、スピードや高さに工夫が見られるか。 ○1つ1つの運動の正確さ 技が雑にならず、丁寧に行われているか。 ○難しい技への挑戦 自分なりに難しい技に挑戦しているか。 (補助つき可) ○調和 仲間と意気が合っているか。 ●ジグソー活動 各エキスパートで学んできたことをグループに戻り、みんなに伝える。 ●クロストーク 感じたことや考えたことをグループで話し合う。	○採点項目について理解させる。 ○グループ毎に集めさせる。 ○ジグソー活動の際に、エキスパートがしっかりグループに伝えさせる。 ◆演技構成や発表会の仕方について理解している。 【知②】
できる技を組み合わせで発表する。 ○本時のねらいを知り、学習の見通しを持つ。 ○基本練習を行う。 ○グループ練習Ⅰ 提示された発表内容(演技内容)を元に、今できる技の練習をする。 ○できる技を組み合わせで発表する。 グループ毎に演技発表する。	○本時のねらいを確認させる。 ○基本練習を行わせる。 ○提示された発表内容(演技内容)を元に、今できる技を練習させる。 ○怪我のないよう、安全には十分留意させる。 ○できる技を組み合わせで発表させる。 ◆技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技をしようとしている。 【関①】
自主的に課題に取り組み、お互いに教え合い、補助し合いながら活動する。 ○課題解決練習Ⅱ (①と②は時間で入れ替えて、前半・後半で行う。) ①個人練習 ・発表会に向けて自己の課題に応じて練習し、技能を向上させる。 ②グループ練習 ・発表会に向けてグループ毎に練習し、グループ演技の完成度を高める。 ○ミニ発表会 ・後半にグループ練習をした3つのグループは、今できている演技内容を発表する。 ・演技発表をしない3つのグループは、発表を鑑賞・評価する。 ※エキスパート活動のC(採点項目)の内容で評価する。	○本時のねらいを確認させる。 ○課題解決練習Ⅱを行わせる。 ○怪我のないよう、安全には十分留意させる。 ○技のポイントを確認させる。 ○自己の課題を理解させ、適切な練習方法を選択させる。 ○技能が向上するように適切にアドバイスする。 ○音楽に合わせて、演技も合わせられるようにアドバイスする。 ○お互いにアドバイスし合えるように声がけをする。 ○恥ずかしがることなく、全力で発表させる。 ○発表後は拍手で賞賛させる。 ○発表会の評価をさせる。 ◆学習の成果を高めるための運動の仕方の具体例を挙げている。 【知③】 ◆自己の課題を解決するための適切な練習方法を選んでいる。 【思①】 ◆自主的に取り組もうとしている。 【関②】 ◆互いに教え合い、補助し合いながら課題に取り組もうとしている。 【関④】

	自己の技の完成度を高め、仲間との動きを合わせる。	
	○課題解決練習Ⅱ（グループ毎に選択） ①個人練習 ・発表会に向けて自己の課題に応じて練習し、技能を向上させる。 ②グループ練習 ・発表会に向けてグループ毎に練習し、グループ演技の完成度を高める。 ○リハーサル ・発表会に向けてリハーサルを行う。 ・お互いに評価する。 ※エキスパート活動のC（採点項目）の内容で評価する。 ※A・B・Cの3段階で評価をつける。	○本時のねらいを確認させる。 ○課題解決練習Ⅱを行わせる。 ○怪我のないよう、安全には十分留意させる。 ○技のポイントを確認させる。 ◆技のポイントを見つけている。【思②】 ○自己の課題を理解させ、適切な練習方法を選択させる。 ○技能が向上するように適切にアドバイスする。 ○音楽に合わせて、演技も合わせられるようにアドバイスする。 ○お互いにアドバイスし合えるように声がけをする。 ○恥ずかしがることなく、全力で発表させる。 ○発表会の評価を真剣にさせる。 ○発表後は拍手で賞賛させる。 ○自他のグループ発表を適切に評価させる。 ◆仲間の動きと自己の動きを互いに指摘し合いながら合わせている。【思③】
ま と め 50 × 1	まとめ	
	身に付けた技で発表会を行い、単元の学習を振り返り、学習のまとめをする。 ○本時のねらいを知り、学習の見通しを持つ。 ○基本練習を行う。 ○発表会の準備を行う。 ・発表会にむけて、演技の最終確認を行う。 ・発表会の進め方・役割分担を理解する。 ○発表会を行う。 ・グループ発表の評価をお互いにつけさせる。 ※採点項目をもとに、一人一人が他のグループの評価をA・B・Cの3段階でつける。 ○単元のまとめと評価を行う。 ・学習ノートに感想等を記入する。	○本時のねらいを確認させる。 ○基本練習を行わせる。 ○演技発表の最終確認をさせる。 ○発表会の仕方を確認し、理解させる。 ○発表会の役割分担し、自分たちで行わせる。 ◆仲間の良い演技を賞賛しようとしている。【関③】 ◆仲間と動きを合わせて演技することができる。【技②】 ○堂々と自信を持って発表させる。 ○発表会の雰囲気を大事にさせる。 ○発表内容を評価させる。 ○学習のまとめをしっかりとさせる。

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機関 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名： 川島町立西中学校

授業者： 遠藤 和宏 青柳 陽亮

教材作成者： 遠藤 和宏

授業日時	平成27年9月18日 (金)	教科・科目	保健体育
学年・年次	第3学年	児童生徒数	60人
実施内容	器械運動	本時／この内容を扱う全時数	4/12
教科書及び教科書会社	図解中学体育 (あかつき)		

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか） 本時の授業のねらいは、「発表会にむけて構成・演技の仕方を理解する」ことである。学び合いの場面を設定して、これから始まるグループ練習がスムーズに行えるようにしたい。そして、個人の身につけている技能を発表し、それぞれのグループの実態に応じて工夫のある演技構成ができるように知識を身につけさせたい。
メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題） 発表会にむけて集団演技の構成と演技内容を作ろう！
児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。） 前時まで技能の確認を中心に授業を行ってきたため、発表会のことについては本時で初めて知ることになる。そのため、自分の中で発表会についての情報を整理し、理解するまでに多少の時間がかかること、そして、その情報を言葉にして仲間に正確に伝えることに難しさを感じたり、話をする事自体に恥ずかしさを感じてしまうことが予想される。
期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準） 発表会の仕方や演技構成の仕方について理解している。 発表会に向けて自分はどんな技に挑戦していくのかを考えたり、グループでどんな構成をしていくのかを考えたり、話し合いをする。

各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞		
A：マット・跳び箱の使い方 ・跳び箱を中央に、その周りに4枚マットを置く。 ・跳び箱の高さを途中で変えてもよい。 ・演技中にロイター版の出し入れをしてもよい。 B：演技時間・1人の演技量 「マット運動」 ・「はじめーなかーおわり」の連続技を3回以上行うこと。 ・きれいに（膝・つま先が伸びている）、流れるような演技（技と技のつながりがスムーズ）を目指すこと。 ・<u>前方倒立回転とび</u>は1回の演技で、「はじめーなかーおわり」の連続技と同じ扱いにしてもよい。 「跳び箱運動」 ・3回以上技を行うこと。 ・空中姿勢を整え、きれいな着地を目指すこと。 「共通項目」 ・難易度の高い技を取り入れた方が良いが、自己の能力に応じた技を選ぶこと。 ・演技の最初と最後にはしっかりポーズをとること。 C：採点項目 ・リズム、流れ ・演技の工夫 ・1つ1つの運動の正確さ ・難しい技への挑戦 ・調和		
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容		
次時から始まるグループ練習では、話し合いを通してスムーズに演技構成が行えるようにする。個人練習では、自分が挑戦する技を見極めながら正確に技を行えるように練習に取り組む。		

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
前時	基本的な技が滑らかにできるようにする。	技ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技をしている。
本時	協調学習を行い、「発表会にむけて構成・演技の仕方を理解する」。	発表会にむけて構成・演技の仕方を理解し、仲間に正確に伝えている。
次時	今できる技を組み合わせで発表する。	今できる技を組み合わせで演技発表し、発表会のイメージが作れている。

上記の一連の学習で目指すゴール
発表会に向けて個人のスキルアップはもちろん、グループ内での協力や教え合いを通して、今まで感じることのできなかつた器械運動の楽しさを感じさせ、達成感を味わわせたい。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
15分	〈導入〉 1 用具の準備・修道・あいさつ・出欠確認・健康観察 2 準備運動 ①西中ストレッチ ②補強運動 ③集団走 3 基本練習 前転・後転・開脚前転・開脚後転を3回ずつ行う。 〈課題提示〉 協調学習を行い、グループ発表の構成・演技の仕方を理解する。	○素早く集合させる。 ○元気にあいさつをさせる。 ○出欠の確認をし、健康観察をする。 ○ストレッチ・補強運動を正確に行い、ランニングを意欲的に元気よくさせる。 ○手の付き方や膝がしっかり伸びることを意識させる。
10分	〈エキスパート活動〉 A：マット・跳び箱の使い方 B：演技時間・1人の演技量 C：採点項目	○提示資料を熟読させる。 ○熟読した後、各グループで資料の内容を確認させる。
10分	〈ジグソー活動〉 エキスパート活動で学習したことを自分のグループに教える。	◆自己の課題を解決するための適切な練習方法を選んでいる。 【思考・判断②】 【「努力を要すると判断される」状況の生徒への手だて】 △話をよく聞かせ、資料を使って丁寧に説明する。
10分	〈クロストーク〉 発表会にむけて感じたことや考えたことを話し合う。	【「十分満足できると判断される」状況の生徒への発展的内容】 ○グループの中心となり、話がスムーズに進むように取り組ませる。
5分	〈活動の振り返りとまとめ〉 1 整理運動 2 学習カードの記入 3 集合、整列 4 本時の学習の評価、次時の課題の確認 5 あいさつ、後片付け	○使った部位を、しっかりとほぐさせる。 ○学習カードの記入を通して、本時の活動を振り返らせる。 ○素早く集合させる。 ○本時を振り返り、次時の確認をする。 ○元気にあいさつをさせる。

グループの人数や組み方

- ・エキスパート活動：20人×3グループ
- ・ジグソー活動：①3人×20グループ ②10人×6グループ
- ・欠席者が居た場合は、適宜調整する。

6 資料

エキスパート活動①

組 氏名

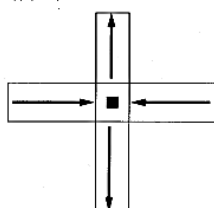
【A：マット・跳び箱の使い方】

- ・跳び箱を中央に、その周りに4枚マットを置く。
 - ・跳び箱の高さを途中で変えてもよい。
 - ・演技中にロイター板の出し入れをしてもよい。
- ※跳び箱やロイター板の出し入れによって、演技の流れが途切れないように気をつけること。

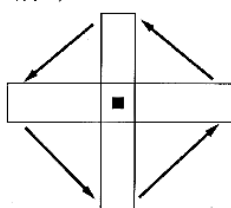
〈マット・跳び箱配置図〉

○ 人の動きの例

(例1)



(例2)



- ※1 ■は跳び箱
※2 矢印は人の動き

エキスパート活動②

組 氏名

【B：演技時間・1人の演技量】

〈演技時間〉

1分30秒 (曲：ヒカレ ゆず)

〈1人の演技量〉

マット運動

- ・「はじめ—なか—おわり」の連続技を3回以上行うこと。
- ・きれいに(膝・つま先が伸びている)、流れるような演技(技と技のつながりがスムーズ)を目指すこと。
- ・前方倒立回転とびは1回の演技で、「はじめ—なか—おわり」の連続技と同じ扱いにしてもよい。

跳び箱運動

- ・3回以上技を行うこと。
- ・空中姿勢を整える、きれいな着地を目指すこと。

共通事項

- ・難易度の高い技を取り入れた方がよいが、自己の能力に応じた技を選ぶこと。
- ・演技の最初と最後にはしっかりポーズをとること。

エキスパート活動③

組 氏名

C：採点項目

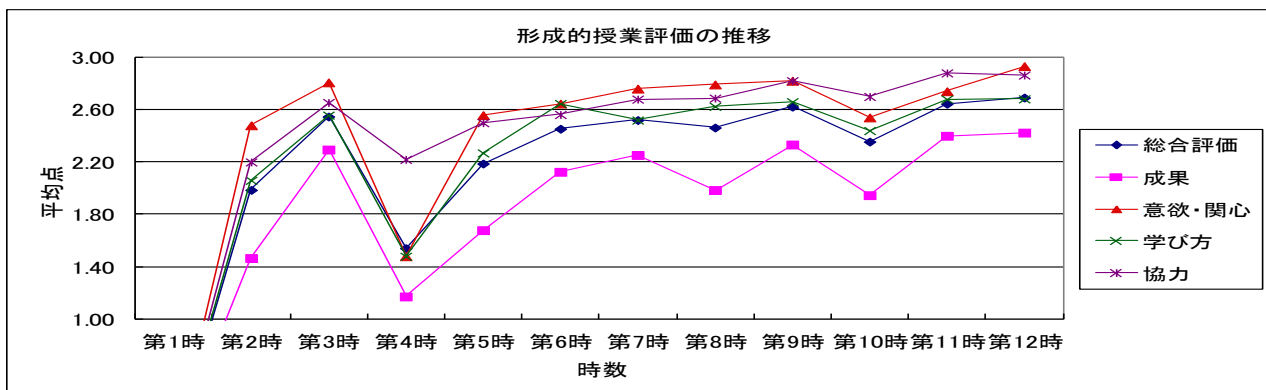
- リズム・流れ
演技と演技のつながりがスムーズか。
- 演技の工夫
演技と演技の組み合わせ方、スピードや高さに工夫が見られるか。
- 1つ1つの運動の正確さ
技が雑にならず、丁寧に行われているか。
- 難しい技への挑戦
自分なりに難しい技に挑戦しているか。(補助つきでも)
- 調和
仲間と動きが合っているか。

※他のグループの発表を見て、お互いに評価し合います。

*参考文献 高橋建夫・藤井喜一・松本格之祐・大貫耕一 編著
体育科教育〔別冊〕新学習指導要領準拠新しいマット運動の授業づくり

7 成果と課題

【中学校 第3学年 器械運動（マット運動・跳び箱運動）】



	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時	第11時	第12時
総合評価		1.99	2.55	1.54	2.19	2.45	2.52	2.46	2.62	2.36	2.64	2.69
成果		1.47	2.29	1.17	1.68	2.13	2.25	1.99	2.33	1.95	2.40	2.42
意欲・関心		2.48	2.81	1.48	2.56	2.65	2.76	2.79	2.82	2.54	2.74	2.93
学び方		2.06	2.56	1.48	2.27	2.65	2.52	2.63	2.66	2.44	2.68	2.68
協力		2.20	2.65	2.22	2.50	2.56	2.68	2.69	2.82	2.70	2.88	2.86

(1) 成果

(3点満点)

- ①第4時に協調学習を行った。「マット・跳び箱の使い方」「演技時間・1人の演技量」「発表会の採点項目」の3つに分かれてエキスパート活動を行い、ジグソー活動、クロストークを行った。第4時の授業の中では、「協力」の項目が1番高かったことから、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的な授業が展開されたと考える。
- ②第3時・第7時・第9時・第11時は、それぞれ前時と同じ授業展開を取り入れた。その結果、説明の時間を短くすることができたと同時に、スムーズに授業を進行することができ、運動時間の確保につながった。
- ③本単元では「協力（教え合い）」が1つのテーマであり、「協力（教え合い）」することで、器械運動のこれまでのイメージを変えたいと考えた。そのことを踏まえると、「協力」の項目は、授業が進むにつれて少しずつ高くなっている。また、単元最終日に、器械運動に対するイメージを調査したところ、「好きになった」「イメージがプラスになった」と答える生徒が9割を超えた。

(2) 課題

- ①自分なりにエキスパート活動、ジグソー活動、クロストーク活動を工夫して行ったつもりではあるが、第4時では、初めて協調学習を実施したため、教師の理解が十分ではなかったことと、生徒が戸惑いの中で授業が進み、運動量が少なくなってしまうことから、各項目とも低い値となってしまった。しかし、単元全体としては、一定の運動量を確保したと言える。今後も保健体育授業で協調学習を実施する場合は、運動量の確保が課題となってくるであろう。
- ②成果②とは対照的に、第2時・第5時・第8時・第10時では、新しい授業展開を導入したため、多くの項目で数値が下がった。新しい活動にを実施する上で説明時間を取りすぎてしまったことが一番の要因と考える。①と同様に授業実施上の説明時間をいかに簡潔かつ分かり易く生徒に伝えるかが課題である。

(3) 今後の展望

今回の実践より、協調学習がより効果的に行われるためには、実践を重ねること、また反復練習と発表を行うにあたり教師自身の授業力のスキルアップが重要である。

○補足資料

・「学習カード」

「器械運動」 マット・跳び箱 学習カード (時間目)

27年 月 日 年 組 氏名 ()

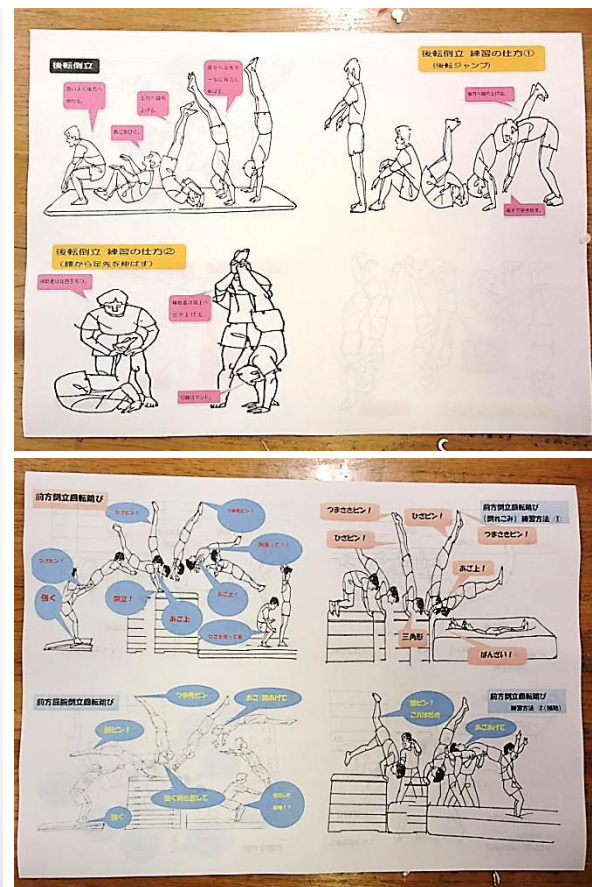
○今日の目標 ○取り組んだ内容

○今日のつまずきと次の課題

私は、 がうまくいかず、きれいに演技をすることができなかった。次回は、 を意識して、授業に取り組めます。

自己評価 ※ 9項目中2項目選び、3or 2or 1にした理由を書きなさい!!!

1	深く心に残ることや、感動することがありましたか。	3	2	1
2	今までできなかったことができるようになりましたか。	3	2	1
3	「あっ! わかった!」とか「あっ! そうか!」と思ったことがありましたか。	3	2	1
4	情一杯、全力を尽くして運動することができましたか。	3	2	1
5	楽しかったですか。	3	2	1
6	自分から進んで学習することができましたか。	3	2	1
7	自分の目標に向かって何度も練習できましたか。	3	2	1
8	仲間と協力して学習できましたか。	3	2	1
9	仲間とお互いに教え合ったり、助けたりしましたか。	3	2	1



・「生徒のコメント」

6	自分から進んで学習することができましたか。	3	2	1
2人1組の意見が、よくわかったことや、1人1人の時間が説明が、 すばやく伝わるが、よかった!				
7	自分の目標に向かって何度も練習できましたか。	3	2	1
8	仲間と協力して学習できましたか。	3	2	1
9	仲間とお互いに教え合ったり、助けたりしましたか。	3	2	1
今日は、班のみんなと話し合っ て頑張りました。今までは、 1人1人の意見が、よくわ かった人とも、体育の話し合 いで意見が、よくわかった です。				

第1学年1・2・3組 保健体育科学習指導案

平成27年11月13日（金）第1校時
埼玉県立越ヶ谷高等学校 1年123組
在籍生徒数 女子29名
指導者 教諭 鶴見 舞

1 単元名 「器械運動」（マット運動）

2 単元について

（1）教材観

マット運動は、非日常的で巧緻的な運動である。運動を経験する中で自分の体をコントロールする能力やそれに必要な筋力が高まることが期待できる。また、克服すべき困難さが運動自体にあり、「できる」ようになることで成就感を味わえたり、「より美しく」というような技の完成度を迫及したりする楽しさが味わえる運動でもある。一方、失敗時の肉体的苦痛や、生徒が「挑戦したい」と思う技に差が出やすいなどの特性もある。

（2）生徒観

1学年123組アンケート結果（授業1回目の調査結果）

質問項目	割合	理 由
体を動かすことが好き	75%	気分転換になるから、達成感を味わえるから、楽しいから
体を動かすことが嫌い	25%	できないから、疲れるから、散歩程度なら好き
体育の授業が好き	68%	挑戦できるから、球技が好き、協力できるから
体育の授業が嫌い	32%	走るのが苦手だから、運動神経がよくないから
マット運動が好き	39%	体操系は好きで楽しいから、挑戦できるから
マット運動が嫌い	61%	失敗すると痛いから、できない技が多いから

アンケート結果より、体を動かすことや体育の授業は好きな生徒が多いが、マット運動に関しては苦手意識を持っている生徒が多い。失敗すると痛みを伴うことや、できない技があるとやる気を損ねてしまうことが原因だと考えられる。授業全体の雰囲気としては、苦手なことでも真剣に取り組もうとする生徒が多く、互いの動きを見合ったりしてできない原因を探ろうとする姿勢が見られる。

（3）指導観

マット運動では、「自己に適した技を高めて、演技すること」ができるようになることが求められている。「技ができる、できる技が増える」を目指して、自らの課題を克服する課題達成型の運動である。したがって、生徒の達成感や成就感に焦点を絞った授業を展開していく。一方、技の成否がはっきりと出るため、「できない」生徒の意欲減退にも留意しなければならない。そこで、本単元では「側方倒立回転」に関する技能の習熟度を把握し、3つに分類することとそれらを意図的に組み合わせることで、「できない」生徒が「できる」ようになるための授業を展開する。具体的には、技能の習熟度別に分けた生徒同士が互いの動きを分析し合い、「上達のコツ」や「つまづくポイント」等の発見を通して、「できる」ようになるための練習方法や教具を考案する授業を展開していく。また、この活動を通して、生徒全員が「側方倒立回転」の運動構造を理解し、クラス共通のコツやポイントの共有を通して技能段階に応じた「美しさ」を追及させたい。あわせて、「できる」生徒と「できない」生徒が豊かに関わり合いながら、「できる」喜びを共有しあえる授業にしていきたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①マット運動の学習に主体的に取り組むとともに、良い演技を讃えようとする、自己の責任を果たし互いに助け合い教え合うことができるようにする。また、健康・安全を確保して取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ②生涯にわたってマット運動を豊かに実践するために、自己の課題に応じた運動の取り組み方ができるようにする。【思考・判断】
- ③マット運動の特性に応じて演技するために、自己に適した技を身につけられるようにする。【運動の技能】
- ④技の名称や行い方、運動観察の方法、発表会の仕方を理解できるようにする。【知識・理解】

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
器械運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、よい演技を讃えようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたって器械運動を豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	器械運動の特性に応じて演技するための、自己に適した技を身に付けている。	技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、発表会や競技会の仕方を理解している。
【学習活動に即した評価規準】			
①よい演技を讃えようとしている。 ②自己の責任を果たそうとしている。 ③互いに助け合い教え合おうとしている。 ④健康、安全を確保しようとしている。	①仲間と学習する場で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。 ②自己の課題に応じた、適切な練習方法を選んでいる。 ③器械運動を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	①回転系や巧技系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。	①技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②運動観察の方法について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。

4 指導計画（本時 3 / 10）

段階	学習活動	指導上の留意点（指導○・評価規準◆）
はじめ 6 5 分 × 1	基本的な技の習得をとおして、体の使い方を理解しよう ○学習のねらいを知り、単元の見通しをもつ。 ・用具の準備や片付けの行い方を知る。 ・学習カード・授業評価の使い方を知る。 ・学習の流れや、学習過程を知る。 ○慣れの運動を行う。 ○基本的な技を通して体の使い方を習得する。 ・前転、後転 ・開脚前転、開脚後転 ○協調学習に向けて側方倒立回転の技能段階を把握するためのテストを行う。	○安全で効率のよい学習の仕方について理解させる。 ○学習の見通しをもたせて、主体的に学ぶ意識を高める。 ○体づくり運動をとおして、倒立や回転などの非日常的な動きに慣れさせる。 ◆健康、安全を確保しようとしている。【関④】 ○基本的な技をより安定させ滑らかに行うことを目指し、そのためのポイントを伝える。 ○自己の技能段階を把握させる〔ニワトリ（できる）、ヒナ（もう少しでできる）、タマゴ（全くできない）の3段階〕
なか 1 6 5 分 × 2	側方倒立回転を習得するための練習方法・教具を考えよう ◎エキスパート活動 【A】：側転ができる生徒達のグループ。できない生徒ができるようになるにはどうアドバイスするかを考える。 【B】：側転がもう少しでできそうな生徒達のグループ。どこを改善したらより美しくできるようになるかを考える。 【C】：側転ができない生徒達のグループ。できない原因と克服方法を考える。 ・各グループで出た意見はプリントにまとめる。 ●ジグソー活動 ・エキスパート活動で見つけた各グループの意見をジグソーグループで説明し合う。 ・各グループの説明を受けて、側転ができるようになるためには何が大切なのか（運動のコツ）をまとめる。見出したコツが達成されるような練習方法、教具を考える。	○実際に体を動かし、互いの動きを比較し合いながら課題を解決していけるように声かけを行う。 ○次のジグソー活動で意見交換を行うことを伝えて、全員が責任を持って準備ができるように声かけを行う。 ◆仲間と学習する場で、仲間の動きと自己の動きの違いなどを指摘している。【思①】 ○エキスパート活動で導き出した答えを説明する際、全員の生徒が発言するように声かけを行う。 ◆自己の責任を果たそうとしている。【関②】 ○各グループに技能段階の異なる生徒を混在させて、どの生徒にも有効な練習方法を考えさせる。 ○実際に体を動かし試しながら活動するよう声かけを行う。 ◆互いに助け合い教え合おうとしている。【関③】 ○練習方法は、グループで一つでも、複数の段階練習でも構わない。グループでオリジナルの練習方法を生み出せるように声かけを行う。
なか 2 6 5 分 × 2	自分が習得したい技の練習方法を考えよう ●クロストーク ・各グループで考えた練習方法、教具を発表する。 ・各グループの発表を受けて、自分に合った練習方法を選び実践する。 ○知識構造型ジグソー法で学んだことを生かして、自分が挑戦したい技の練習に取り組む。	○どこにポイントをおいた練習方法なのか、説明を交えて発表させる。 ◆自己の課題に応じた、適切な練習方法を選んでいる。【思②】 ○挑戦したい技ごとにグループを編成し、練習に取り組む。仲間との比較・分析、教え合いや習得のための工夫など、ジグソー法で学習した内容を取り入れて活動できるように声かけを行う。 ◆器械運動を継続して楽しむための自己に適した関わり方を見つけている。【思③】
まとめ 6 5 分 × 5	習得した技を発表しよう ○これまで取り組んできた技を発表する。 ・学習カードを使用して、自信のついた技のテストを受ける。 ○単元の学習をとおして、習得のために工夫したことや、気付いたことを感想として記入する。	○技の難易度に応じて配点を記した学習カードを使用させる。各技の合格ラインを明確にして生徒に提示する。 ○開始・終了の合図を行わせることで、発表する意識を高めさせる。 ◆回転系や巧技系の技で構成し演技するための、滑らかに安定した基本的な技、条件を変えた技、発展技のいずれかができる。【技①】 ◆よい演技を讃えようとしている。【関①】 ◆技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。【知①】 ◆運動観察の方法について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。【知②】

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名： 県立越ヶ谷高等学校

授 業 者： 鶴見 舞
教材作成者： 鶴見 舞

授業日時	平成27年11月13日(金)	教科・科目	体 育
学年・年次	第1学年	児童生徒数	29人
実施内容	器械運動 マット運動	本時／全時数	3／10

授業のねらい（本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につながるために行うか）
マット運動は「できる」「できない」がはっきりとしている種目なので、技ができていない生徒とできていない生徒の動きを比較・分析し、運動のコツを生徒自ら発見することを目的とする。実際に体を動かしながら比較・分析していく中で、生徒同士の教え合いが生まれることを期待する。
メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）
側方倒立回転を習得するための練習方法・教具を考えよう。
児童生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対しどの程度の答えを出そうか。また、どの点で困難がありそうか。）
側方倒立回転を分解して練習するといった発想が生まれなかったり、補助の入れ方が分からなかったりするため、ひたすら練習することが予想される。また、知識やアイディアが少ないため話し合いが滞ってしまったり、技能段階の低い生徒が消極的になり、教え合いが生まれにくいことが予想される。
期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）
エキスパート活動で生み出した側方倒立回転のコツを取り入れ、自分たちのグループの課題に適したオリジナルの練習方法を考えてもらいたい。練習方法はグループで一つでも、複数の段階練習でも構わないので、どの技能レベルの生徒にも適した練習方法を生み出してほしい。
各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出ために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞
A 側方倒立回転ができる生徒：できない生徒ができるようになるためにはどのようなアドバイスをするか考える。 B 側方倒立回転がもう少しでできそうな生徒：どこをどのように改善したらより美しく行えるかを考える。 C 側方倒立回転ができない生徒：できない原因と改善方法を考える。 ※実際に体を動かし互いの動きを比較し合いながら各グループの課題を解決していく。
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
ジグソー活動で考え出した練習方法を発表し合い、互いの練習方法を評価し合う。発表された練習方法の中から、自分の課題に適したものを選択し、実際に取り組み習得に向けて練習する。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい目安
これまで	体づくりの運動や基本的な技の練習	・倒立や回転などの非日常的な動きに慣れる。 ・基本的な技をより安定させ滑らかに行うことを目指し、そのためのポイントを理解している。
前時	側方倒立回転のテストを行い、技能段階を判定する。協調学習（エキスパート活動）をとおして側方倒立回転の上達のポイントを考える。	・自己の技能段階を把握している。 ・エキスパート活動では、互いの動きを比較し合って、正しい動作を理解することができる。
本時	協調学習（ジグソー活動）をとおして、側方倒立回転の練習方法を考える。	・ジグソー活動では、正しい動作を達成するための練習方法を生み出すことができる。
次時	ジグソー活動で生み出した側方倒立回転の練習方法を発表する。発表後、全グループの練習方法から自分に合った練習方法を選択し、技能向上に向けて練習する。	・生み出した練習方法と、その意図を発表することができる。 ・自己の課題に合った練習方法を選択することができる。
この後	自分の挑戦したい技に取り組む。	・協調学習での経験を生かして、互いの動きを分析し合い上達のポイントを自ら見つけだすことができる。 ・仲間同士で教え合いながら取り組むことができる。

上記の一連の学習で目指すゴール
グループ活動をとおして、習熟度の異なる生徒同士が積極的にコミュニケーションを図り互いに学び合う態度で取り組めるようにする。特に、できない生徒の技能をどのようにして向上させていくかをポイントとして考えさせることで、全員が意欲的に取り組み、教え合う楽しさや難しさを味わえるようにする。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
15分	<導入> 1 集合、整列、挨拶、出欠確認 2 準備運動（ラジオ体操） 3 補強運動 （腕立て・腹筋・背筋・バーピー・馬跳び 各20回） 4 ストレッチ 5 マットの準備	○授業開始のチャイムと同時に挨拶を行う。 ○忘れ物がないか確認する。 ○元気よく声を出させる。 ○けが防止のため入念にストレッチさせる。
30分	<課題提示> 側方倒立回転を習得するための練習方法を考えよう <ジグソー活動> エキスパート活動で見つけた各局面のポイントを達成するための練習方法を考える。 ・ジグソーグループに分かれて、エキスパート活動で出た答えについて意見交換を行う。 ・意見交換の結果を受けて、グループオリジナルの練習方法を考える。	○前回の（エキスパート活動）の振り返りを行う。 ○各グループにエキスパート活動ABCそれぞれの生徒が分散するように配置する。 ○練習方法を創造するにあたり、どの意見に焦点を当てるかを考えさせる。その際、ひとつに絞っても、複数の段階練習でも、どちらでも構わないことを伝える。どの技能段階の生徒にも有効であるグループオリジナルの練習方法を生み出せるように声かけを行う。
15分	<まとめ> 1 後片付け 2 本時の振り返り 3 次時の予告・挨拶	◆自己の責任を果たそうとしている。 【関・意・態②】 ○協力をして素早く行わせる。 ○本時の学習をとおして良かった点を発表させる。 ○次回は発表を行うことを予告する。

グループの人数や組み方

【エキスパート活動】

側方倒立回転のテスト結果より、

- ・Aグループ（できる生徒）9名
- ・Bグループ（もう少しでできそうな生徒）10名
- ・Cグループ（できない生徒）10名

【ジグソー活動】

- ・6人×4班、5人×1班

1年 マット運動 エキスパート活動資料 A

にわとりグループ

【課題】

たまごちゃんたちが側転ができるようにアドバイスを考えよう。

※構え・着手・中間動作（倒立動作）・着地 など様々な局面から分析しよう。

※実際に体を動かしてやってみながら、課題を解決していこう。

1年 マット運動 エキスパート活動資料 B

ひなグループ

【課題】

側方倒立回転がより美しくできるようになるための改善点を考えよう。

※構え・着手・中間動作（倒立動作）・着地 など様々な局面から分析しよう。

※実際に体を動かしてやってみながら、課題を解決していこう。

1年 マット運動 エキスパート活動資料 C

たまごグループ

【課題】

側方倒立回転ができない原因をみつけよう。また、改善方法を考えよう。

※構え・着手・中間動作（倒立動作）・着地 など様々な局面から分析しよう。

※実際に体を動かしてやってみながら、課題を解決していこう。

【メンバー】

(例) 鶴見 タマゴ				

【課題】

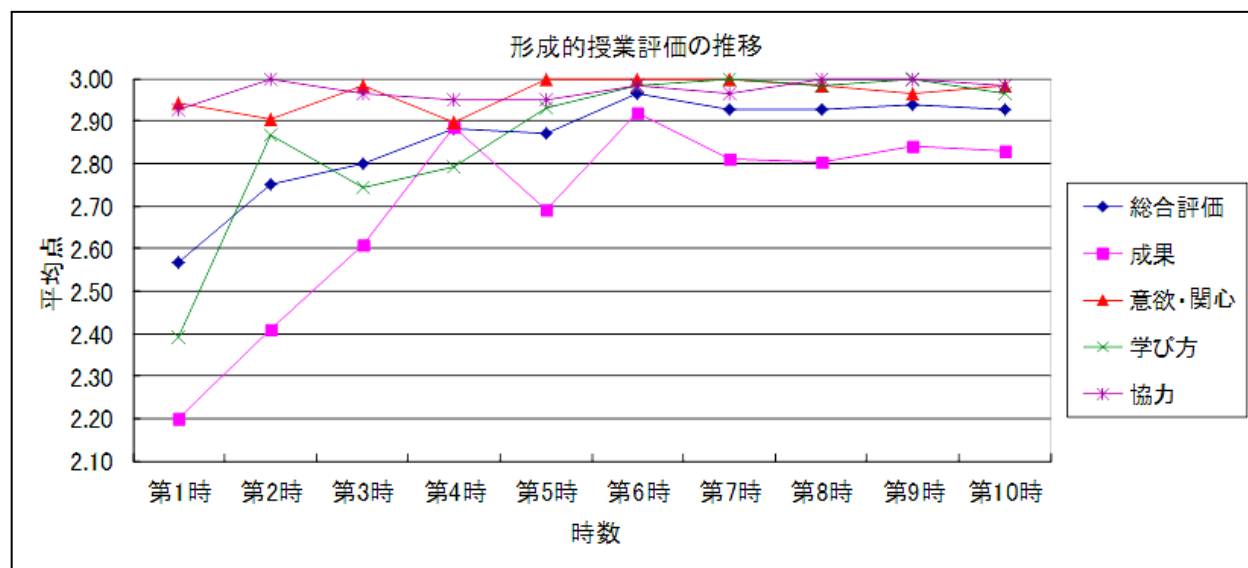
側方倒立回転を習得するための練習方法・教具を考えよう！

- エキスパート活動で見つけたそれぞれの意見を発表し合い、どの意見に焦点を当てていくかを決める。一つの意見に焦点を当てて練習方法を考えても、複数の意見に焦点を当てていくつかの練習方法（段階練習）を考えてもよい。
- メンバー全員でアイディアを出し合い、みんなにとって有効な練習方法を考えられると良い。
- どんな道具が使えるか（必ず一つ以上使用する）考え、グループオリジナルの練習を考える。

練習方法の名前	
どんな意見に焦点を当てたか (何のための練習か)	
使用する道具	
説明（イラストも含めて）	

7 成果と課題

【高等学校 第1学年 器械運動（マット運動）】



(3点満点)

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時	第8時	第9時	第10時
総合評価	2.57	2.75	2.80	2.88	2.87	2.97	2.93	2.93	2.94	2.93
成果	2.20	2.41	2.61	2.89	2.69	2.92	2.81	2.80	2.84	2.83
意欲・関心	2.94	2.90	2.98	2.90	3.00	3.00	3.00	2.98	2.97	2.98
学び方	2.39	2.87	2.74	2.79	2.93	2.98	3.00	2.98	3.00	2.97
協力	2.93	3.00	2.97	2.95	2.95	2.98	2.96	3.00	3.00	2.98

(1) 成果

- ①今回の授業では「成果」に重点を置いていなかったが、第4時のクロストークで点数が高かった。例年の1年生と比較しても側転ができるようになった生徒が多かった。また、エキスパート活動をとおして、たまごグループ（側方倒立回転ができないグループ）だった生徒が上達していく様子が見られた。
- ②「学び方」については、協調学習を開始した第2時より高まった。
- ③第5時以降（協調学習終了後）も、生徒同士で自然と教え合う様子があった。

(2) 課題

- ①エキスパート活動では体を動かしながらコミュニケーションをとる様子は少なく、座って話し合っている時間が長かった。運動量確保の点では課題が残った。
- ②エキスパートの班を決めるための習熟度テストで、たまごグループ（速報倒立回転ができないグループ）の生徒にとっては劣等感を感じる場面となってしまうのではないか。

(3) 今後の展望

協調学習を取り入れたことで、これまであまり見られなかった生徒同士の教え合いが、自然と生まれるようになったことは大きな成果である。課題点を改善し、より有効な学習にしていきたい。一番の課題である運動量の確保については、プリントの記入は時間を決めて行わせたり、エキスパート活動の間は座ってはいけないなどのルールを設けたりして改善を図りたい。また、エキスパート活動の班分けは、テスト形式で行うのではなく観察によって行うことで、周囲の生徒からの注目を軽減した状態で行っていきたい。

第1学年3・4組 保健体育科学習指導案

平成27年度10月13日(火) 4校時
県立北本高等学校 第1学年34組
在籍生徒数 女子29名
指導者 教諭 袖山 和博

1 単元名 「陸上」 (長距離走)

2 単元の特徴

(1) 教材観

長距離走における入学年次では「自己の技能・体力の程度に合わせて設定したペースに応じたスピードを維持して走ることをねらいとしている。的確な課題のもとに繰り返し練習していくと、記録の向上が期待できる運動である。したがって、生徒は練習の成果として記録の向上が見られたときには、大きな喜びを感じたり、ある一定のペースを維持し、決められた距離を走り抜いたときに強い爽快感や充実感、達成感を感じることができる運動でもある。

(2) 生徒感

本学級の生徒は、全体的に明るいクラスであるが、運動部に加入している生徒も非常に少なく、運動が苦手と嫌いという生徒も数多く在籍する。5月に行った体力テストの種目である1000m走では、クラスの平均タイムが県の平均タイムを上回ったが、個々の体力の差は大きい。事前に行った持久走に対するアンケートでも長距離走が苦手・嫌いと言う生徒が半数以上であった。また、グループなどでの人間関係でやる気をなくす生徒もいる。

(3) 指導観

高等学校学習指導要領解説で求められている、長距離走の入学年次の技能は、「自己に適したペースを維持して走ることを」である。しかしながら、長距離走の学習は、長い距離をただ闇雲に走らせ、活動時間内での走る距離や速さを競わせるだけの授業形態で実施されることが多かった。そのため、長距離走本来の楽しさを十分触れさせることができない授業が多く存在していると感じている。したがって、長距離走本来の特性や魅力を十分に味わわせるために、効果的な練習方法を理解させるとともに、自己や仲間の技能に応じた課題の設定の仕方や運動を継続するための取り組み方を通して生徒の思考力・判断力を高めたい。また、長距離走の運動技能の向上にあたっては、生徒同士でコミュニケーションを多くとる場面を設定し、実際の「走り」を通して自己に適した走り方(足の接地、腕の振り、歩幅)とペースに気付かせるとともに、生徒個々が立てた目標に向かって主体的に学習できるような手立てを仕掛けていきたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①陸上競技(長距離)の特性に関心をもち、自己の課題や役割を自覚して、積極的に授業に参加し、仲間と教え合い、協力することができる。 【関心・意欲・態度】
- ②自己の能力に適した課題をもち、その解決を目指して練習や競技の仕方を工夫することができる。 【思考・判断】
- ③種目の特性に応じた技能を身に付け、その技能を発揮することができる。 【運動の技能】
- ④種目の特性、合理的な運動の仕方、競技方法やルールなどを理解する。 【知識・理解】

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元 の 評 価 規 準	- 陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。 - 互いに助け合い教え合おうとしている。 - 互いに助け合い教え合おうとしている。 - 健康安全を確保している。	- 仲間に対して効果的な課題など指摘している。 - 自己の課題に応じた運動の行い方の改善すべきポイントを見付けている。 - 自己の課題に応じて、技術的な課題や有効な練習方法の選択に関して指摘している。	自己に適したペースを維持して走ることができる。	- 技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 - 陸上競技に関連した体力の高め方について学習した具体例を挙げている。 - 運動観察の方法について理解したことを言ったり書き出したりしている。

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①授業規律を守り健康・安全に留意して取り組もうとしている。 ②集合・活動場所に素早く行動しようとしている。 ③仲間と協力し課題解決について気がついた点を教えあいながら活動しようとしている。 ④準備運動の目的を理解し、元気よく声を出して行おうとしている。	①フォームの確認などの話し合いの場面に積極的に参加し課題解決のための方策を見付けている。 ②学習のねらいや長距離走の特性を見付けている。 ③長距離走を継続して楽しむため、自己に適した関わり方を見付けている。	①仲間のアドバイスを活かし、フォームなどの改善に取り組むことができる。 ②自己に合った走法（足の接地・歩幅・腕の振り）ができる。 ③自己に適したペースで走ることができる。	①心拍数を測定し、持久力向上と心拍数の関わり方を言ったり書きだしたりしている。 ②技術を向上させるポイントや練習方法について具体例を挙げている。 ③自己のペースを理解し、ワークなどに書き出している。

4 指導計画（ 本時2／10 ）

段階	学習活動のねらいと・活動	指導・評価（指導○・評価◆）	評価法
はじめ 50分 × 1	特性を理解し、学習の見通しを立てる。心拍数から自分の持久力を知る。 ○オリエンテーションを行う。 ・長距離走の特性・単元のねらいを理解する。 ・安全に関する約束を確認する。 ○体力を知るためのペース走 ・12分間走を行う。 ・直後に心拍数を測定する。 ○心拍数から自分の体力を考える。 ・心拍数から自分の体力がどのぐらいかを知る。	○単元のねらいや、長距離走の特性について理解させ、安全に運動するための約束事を理解させる。 ◆授業規律を守り健康・安全に留意して取り組もうとしている。【関①】 ○12分間同じペースで走らせる。 ◆心拍数を測定し、持久力向上と心拍数の関わり方を言ったり書きだしたりしている。【知①】	観察 個人カード

な か ① 50 分 × 3	「自己に適したフォームづくりをしよう。」 ◎エキスパート活動 ○グループのメンバーが 「足の接地」「腕の振り」「歩幅」の3つに分かれそれぞれの課題に取り組む。 ◎ジグソー活動 ○エキスパート活動で学んだことを他のメンバーに伝え、学習カードから走りやすさを話し合う。 ○走りやすいフォームを探すペース走 ・12分間走を行う。 走る技術を学び、自分のペースを探り、ペースの計算ができるようにする。 個人の設定タイムが適切に設定できる。仲間を応援することができる。	○それぞれの場において「エキスパート活動」の課題を提示し、運動のねらいを持たせる。 ○それぞれの運動の場で課題解決に向けた取り組みがなされているか、助言を行いながら思考を誘導していく。 ○生徒側からの気づきや工夫を積極的に広め、実感させ、全体へ共有発展させる。 ○「ジグソー活動」では互いに高め合い、肯定的な雰囲気での学習が進むように、伝え方や励まし方の手本を最初に指導する。 ◆集合・活動場所に素早く行動しようとしている。【関②】 ◆フォームの確認などの話し合いの場面に積極的に参加し課題解決のための方策を見付けている。【思①】 ◆仲間のアドバイスを生かし、フォームなどの改善に取り組むことができる。【技①】 ◆仲間と協力し教え合いながら活動しようとしている。【関③】	観察 観察 個人 カード
な か ② 50 分 × 5	○インターバル走 ・1周750メートルを1周×3回 最低1周5分以内で走る。 ・1周750メートルを2周×2回 最低10分00秒以内でゴールできるようなタイムを設定し、一定のペースで走ることを目標とする。 ○外周3周走 1周750メートル×3周 ・最低15分以内でゴールできるようにする。 ○心拍数の測定 ・心拍数から個人の運動強度を知る。 ○個人カードに記入 ・個人の行った内容を記入し、技術、走力の課題を明らかにする。 ・自己評価、グループ内の相互評価を行う。	◆準備運動の目的を理解し、元気よく声を出して行おうとしている。【関④】 ◆学習のねらいや長距離走の特性を見付けている。【思②】 ○準備運動において腕を曲げたり伸ばしたり意識をさせる。 ○タイマー、ゼッケンなどの用具を用意し、安全に協力して行わせる。 ○記録や準備などの役割を明確に伝える。 ○個人のゴールタイムを設定させる。 ○仲間へのアドバイスや応援などでコミュニケーションを取らせる。 ◆自己に合った走法（足の接地・歩幅・腕の振り）ができる。【技②】 ○各技能のポイントを全体に指導し、個人の能力に応じてアドバイスをを行う。 ○協調学習で行ったフォームについての振り返りを毎回させる。 ○個人カードに記入し、評価と課題を考えさせる。 ◆技術を向上させるポイントや練習方法について具体例を挙げている。【知②】	観察 観察 個人 カード 個人 カード
ま と め 50 分 × 1	自分のペースを知り、距離から自分のゴールタイムが設定でき、走ることができる。 ○外周4周走 1周750メートル×4周 個人でペースを乱さずに自分の設定タイムに挑戦する。 ○心拍数測定 ○単元の反省とまとめ	○自己の課題を明確にするために、個人カードを省みさせ、的確な個人のゴールタイムを設定させる。 ○今までの練習を生かして自分のペースで走ることができるようにする。 ◆自己に適したペースで走ることができる。【技③】 ◆長距離走を継続して楽しむため、自己に適した関わり方を見付けている。【思③】 ◆自己のペースを理解し、ワークなどに書き出している。【知③】 ○単元の成果をまとめ、次の単元につながるようにする。	個人 カード 個人 カード

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名：県立北本高等学校

授 業 者：袖山 和博

教材作成者：袖山 和博

授業日時	平成27年10月1 (火)	教科・科目	保健体育
学年・年次	1 学年 3・4 組 女子	児童生徒数	28 名
実施内容	陸上競技 (長距離走)	本時／全時数	2 / 10

授業のねらい (本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)
自らに適したペースで走れるような走法を見つけ、長距離走を通して走る楽しさを感じさせる。
メインの課題 (授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)
「走りやすいってなんだろう？」自分の長く走り続けていられるフォームを作る。
児童生徒の既有知識・学習の予想 (対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)
事前に行ったアンケートでは長距離走が嫌い・苦手と言う生徒が半数以上であった。そのため走ることにに対する嫌悪感を取り除くことが重要かと思われる。また歩幅を調整するなど普段行うことのない動きが多いため、動作のわかりやすさが必要かと思われる。
期待する解答の要素 (本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)
・足・手・腰のバランスが走りやすさを決める。 ・走りやすいと疲れが少ない。 ・走ることの爽快さ、気持ちよさを感じる。 ・疲れない走り＝だらけたものではないことを感じてほしい。
各エキスパート＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞
A…赤チーム ストライド (歩幅) 70 cm、1 m、1 m 30 cm の位置にコーンを置き、歩幅の違いを感じる。 B…青チーム 腕の振り 1 腕を振らない 2 ゆっくり振る 3 大きく振る 4 普段通り と行っていき、自分に合う腕の振りを見つけていく。 C…緑チーム 足の着地 1 かかとスキップ 2 足裏全部つけスキップ 3 つま先スキップ 4 ゆっくり走る と腰の位置を意識させながら足の接地を学ぶ。
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
「走れる」という実感を得るとともに、「走る楽しさ」に気付くことができるような取り組みを実践する。

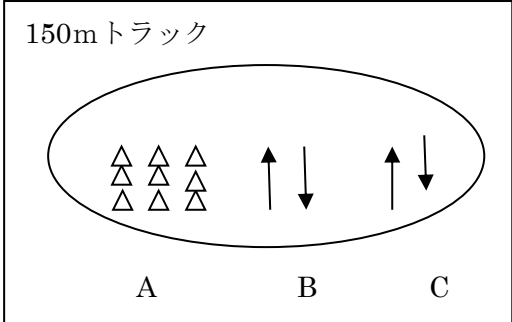
本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	腕に余分な力を入れない走りなど（中学時）	上下動少ないリラックスした走法。
前時	12 分間走を行う。走る前後で脈を測り、変化を感じる。また、早さを問わず 1 2 分間走り続けることだけを目標に行わせる。	12 分走り続けることでの呼吸や心拍数の変化。
本時	腕の振り、歩幅、腰の 3 つのポイントから自己に適したフォームづくり。早さを問わず 1 2 分間走で自分のリズムで走り続けることを目標に行わせる。	自己にあったフォームにより、前回よりも走る楽しさ、疲れにくさを感じてほしい。
次時	インターバル走。制限タイムを入れてかつ一定のペースで走ることを目標に行う。	長い距離でも自分に適したフォームで走る。
この後	外周走 4 周。止まらず一定のペースで走ることを目標に行う。	長い距離でも自分に適したフォームで走る。

上記の一連の学習で目指すゴール

自らに適した走法を見つけ、自分に合ったペースで走ることで長い距離でも走り続けられる実感を得てもらい、走る楽しさを感じて欲しい。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
12分	※授業前に全員で用具を準備する。ゼッケンを着る。 集合、整列、挨拶、出欠（健康観察） 準備運動 本時の学習内容の確認	名前、色、番号を確認できるようにしておく。 ・本時のねらい、内容、流れを理解させる。
15分	エキスパート活動 A…赤チーム ストライド（歩幅） 70m、1m、1m30cmの位置にコーンを置き、歩幅の違いを感じる。 B…青チーム 腕の振り 1腕を振らない 2 ゆっくり振る 3 大きく振る 4 普段通り と行っていく、自分に合う腕の振りを見つけていく。 C…緑チーム 足の着地 1 かかとスキップ 2 全つけスキップ 3 つま先スキップ 4 ゆっくり走る と腰の位置を意識させながら足の着地方法を学ぶ。	・マーカー21本、メジャーを使い視覚で行うことがわかるようにする。 ・わかりやすいようプリントなど使い説明が少なくできるようにする。 ◆フォームの確認などの話し合いの場面に積極的に参加し課題解決のための方策を見付けている。 【思考・判断①】 150mトラック 
5分	ジグソー活動（理論） それぞれ行ったことを確認し合い、全員の共通点から走り方を作っていく。	3つの答えから走り方を導き出せるようにする。
15分	ジグソー活動（実践） 12分間走	一定のペースを守り走り続けるよう支援する。 グループで自分たちの走りについて意見交換させながら走らせる。
5分	まとめ クロストーク（自分の体との対話） 「前回と比べてどうだったか？」と発問 ジグソー活動で導き出した走り方をグループ振り返る。 整理体操・健康観察	練習中に気づいたことや口にしたことを振り返らせる。

グループの人数や組み方

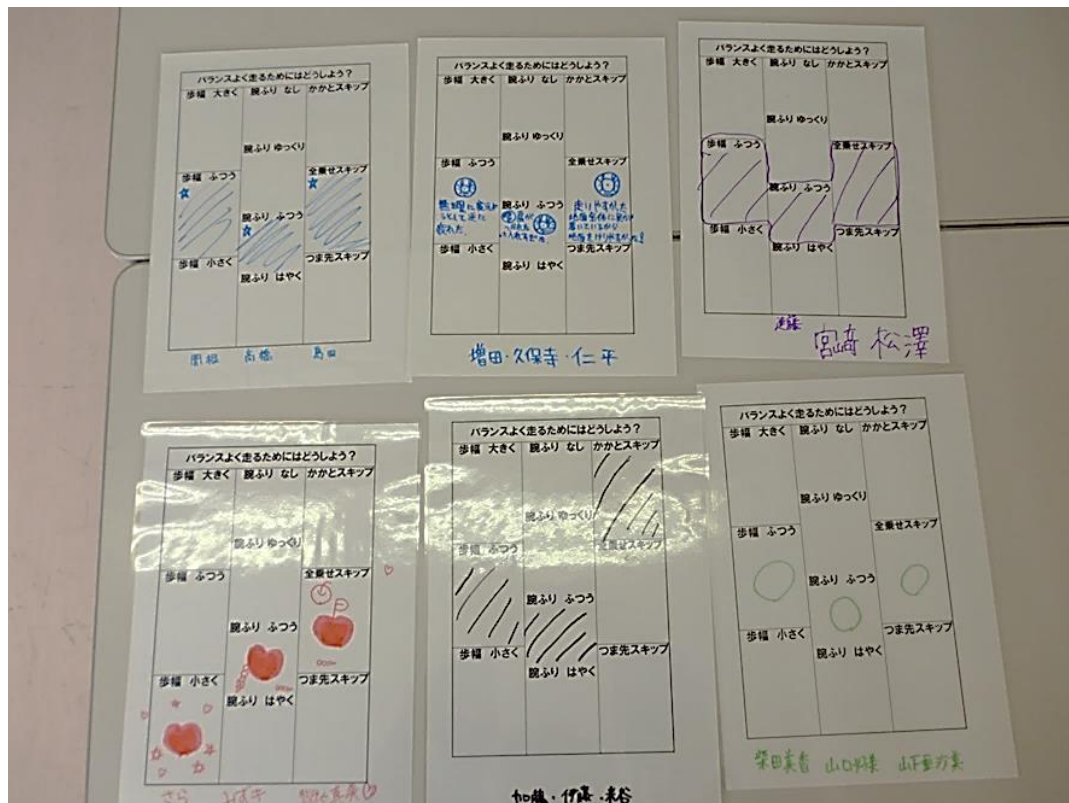
女子28人 3人組8班 4人組1班

運動能力の差が均等になるように分ける。赤A、青B、緑Cで分けエキスパート活動を行い、クロストークに移動する。その際は3色違う色で集まる。という流れで進む。

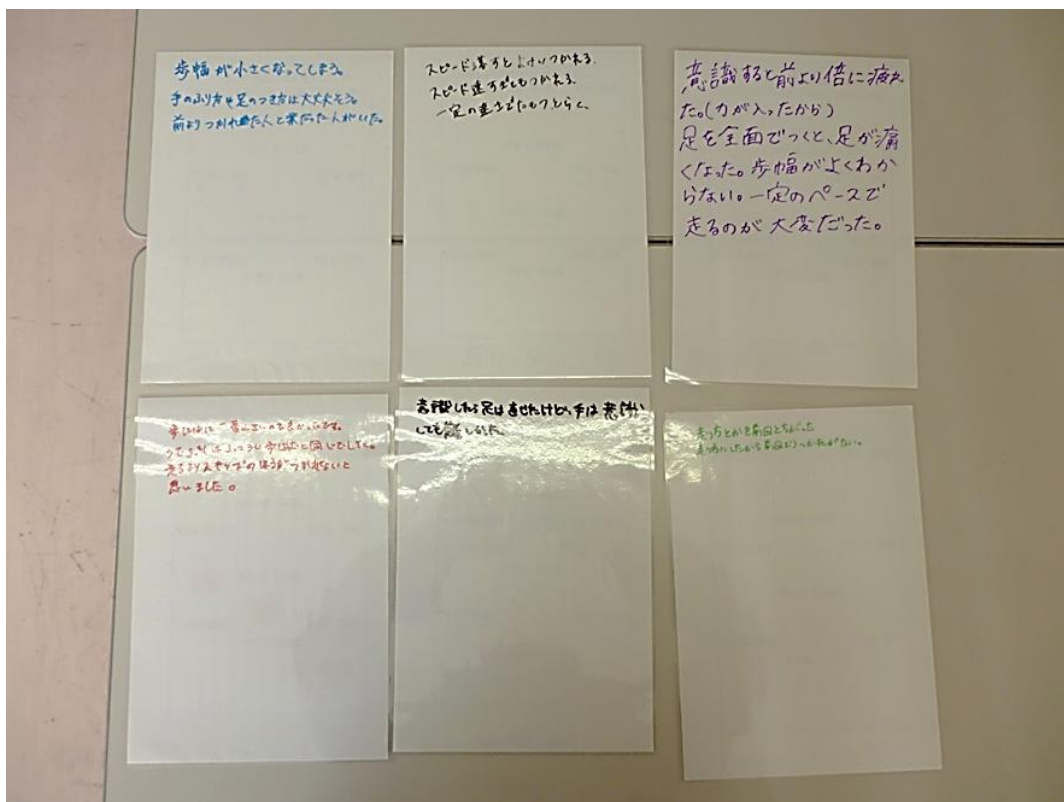
なお、欠席が多い場合には適宜グループは入れ替える予定。

6 資料

(1) エキスパート資料 学習活動の様子 (ジグソー活動から導き出したグループにあった走り方)

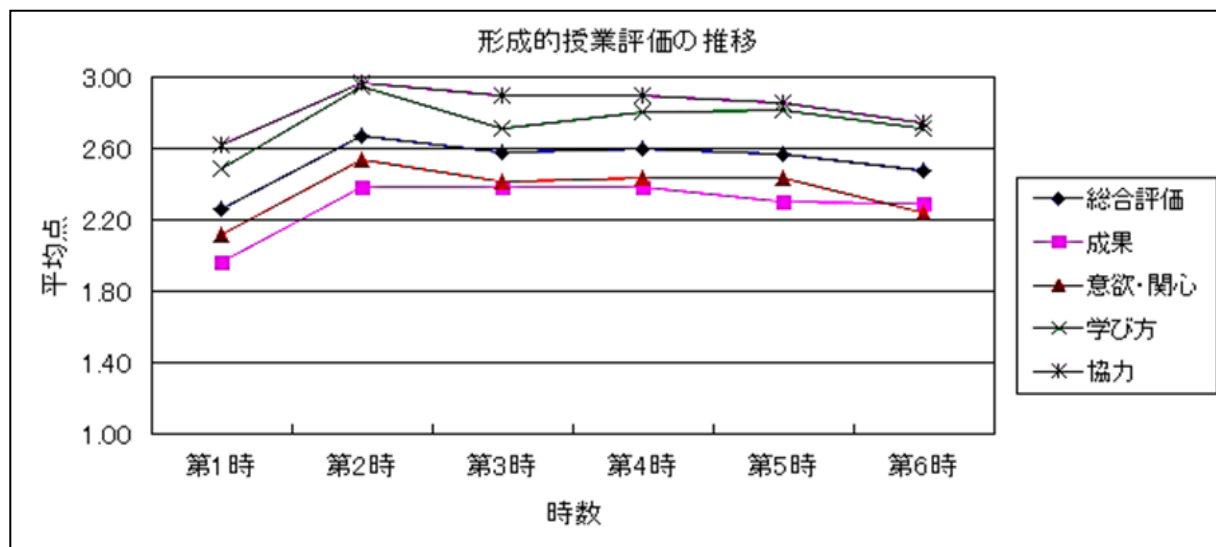


(2) クロストーク資料 導き出した走り方で実際に走った後の感想【自分の体との対話】



7 成果と課題

【高等学校 第1学年 陸上競技（長距離走）】



	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
総合評価	2.26	2.67	2.57	2.60	2.56	2.47
成果	1.96	2.38	2.38	2.38	2.30	2.28
意欲・関心	2.11	2.54	2.41	2.43	2.43	2.24
学び方	2.48	2.94	2.70	2.80	2.81	2.70
協力	2.61	2.96	2.89	2.89	2.85	2.74

(3点満点)

(1) 成果

- ①何名かの生徒は、12分間走に拒否反応を示している様子もあった。しかし、多くの生徒が走り方を意識することにより「普段より楽に走ることができた」と実感する生徒が多数いた。今回の授業では概ね予想どおりの展開で進めることができた。
- ②学習カードがとても有効であった。ラミネートされた紙を使用することで、雨天時にも対応でき、修正も容易であった。
- ③協調学習だけで走る楽しさを実感させきることはできなかったが、単元全体ではフォームを考える時間として非常に有効なものであった。

(2) 課題

長距離走においては、外（グラウンド）での活動が中心となるが、協調学習においては活動場所が広すぎたようである。今後は課題を精査し、より一層生徒への指導内容を明確かつ簡潔に示し、活動量を確保した授業を実践していかなくてはならない。

(3) 今後の展望

今回は高校1年生であったこともあり、「ペースを維持して走る」ことであったが、これが2年、3年と進級していくことにより「ペースの変化に対応して走る」ことになる。そうすれば、タイムと協調学習をからめて、新たなフォーム作りができていくのではないかと考えられる。以前は長距離走での協調学習は難しいと感じていた。しかし今回様々な教員との会話の中で、作っていけるアイデアが生まれた。それにより深い教材研究ができたこともまた事実であり、長距離走に限らず今後もまた協調学習による授業を実践していきたい。

第1学年3・6・9組 保健体育科学習指導案

平成27年9月16日（水）第5校時
県立春日部東高等学校1学年3・6・9組
在籍生徒数 男子6名 女子32名
指導者 教諭 田崎 雅大

1 単元名 「ダンス」（現代的なリズムのダンス）

2 単元について

（1）教材観

ダンスは人間の誕生とともに生まれた。民族の風土や文化に根ざし、歴史の流れに影響されながら、その生活や思想、感情を身体のいろいろな動きで表してきた。

現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることに特徴がある。生徒は、中学校でのダンスの経験はもとより、テレビなどのメディアを通じて曲に合わせて身体を動かすことや見ることもよく慣れ親しんでいる。「ゆっくりできる」から「早くできる」や、「簡単な動きでできる」から「複雑な動きでもできる」など、各生徒の技量に応じて課題設定をしやすいので、出来ないことによる劣等感を比較的感じにくい。一方で男女が一緒に活動することや発表時などの人前で踊ることに抵抗を感じやすいという特性がある。

（2）生徒観

中学校でのダンスの授業に好意的な感情をもっており、単元のはじめから積極的に授業に取り組める。曲に合わせて身体を動かすことに慣れ親しんでいる印象を受ける。また、手拍子や掛け声などが自然発生的に生まれる雰囲気がある。

身体を動かすことが好きな生徒が多く、また、非常に真面目でもある。与えられた課題に対して真摯に取り組もうとする姿が見られる。明るく、楽しみながら学習を進めていく雰囲気がある。

（3）指導観

ダンス（現代的なリズムのダンス）ではリズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ることが重要である。中学校での学習など、これまでの経験を土台にしながら、生徒が持っている豊かな感性や独創性を最大限に発揮して欲しい。仲間との関わり合いや主体的な動きづくりをねらって、指導者が提示する動きは必要最小限とした。基本的な動きをアレンジしたり、隊形移動などの工夫を凝らしたりしながら、それぞれの班が動きを組み合わせたりしてオリジナルの作品を完成できるようにさせる。班員で協力して、繰り返し踊り込んだダンスを皆の前で発表することを通して、踊ることの楽しさや、充実感・達成感を味わわせたい。

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- ①互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、発表したりすることができるようにする。【関心・意欲・態度】
- ②グループの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようにする。【思考・判断】
- ③感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりして、交流し、発表することができるようにする。【運動の技能】
- ④ダンスの特性、踊りの由来と表現の仕方について理解し、知識を身につけることができるようにする。【知識・理解】

(2) 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元 の 評 価 規 準	ダンスの楽しさや喜びを味わうことができるよう、互いの違いや良さを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。	生涯にわたってダンスを豊かに実践するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。	ダンスの特性に応じて、交流や発表ができるよう、イメージを深めた表現や踊りを身に付けている。	ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解している。
学習活動に即した評価規準				
学習活動 に 即 した 評 価 規 準	①ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。 ②互いの違いや良さを認め合おうとしている。 ③自己の責任を果たそうとしている。 ④お互いに助け合い教え合おうとしている。 ⑤健康・安全を確保しようとしている。	①設定された曲から動きのイメージをふくらませている。 ②動きの中で隊形作りや踊りによる表現方法を工夫している。 ③仲間の表現や動きに対して指摘している。	①リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、踊ることができる。 ②リズムに乗って全身で踊るための動きができる。	①ダンスに関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 ②ダンスの名称や用語について、学習した具体例を挙げている。 ③交流や発表の仕方について、学習した具体例を挙げている。 ④踊りの特徴と表現の仕方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。

4 指導計画（本時 8／12）

段階	学習活動のねらいと・活動	指導上の留意点（指導○、評価◆）
はじめ 55分×2	種目の特性を理解させ学習の見通しをもたせる。基本的な動きを身につけさせ、適切な態度で学習に臨ませる。 ○ダンスの種目特性を知る。 ○学習のねらいや進め方を知り、見通しをもつ ○評価の仕方について知る。 ○学習カードの記入の仕方を理解する。 ○ミッキーの動きを知り、身につける。	○単元の見通しをもたせる。 ◆ダンスの学習に自主的に取り組もうとしている。【関①】 ◆選曲された曲から動きのイメージを膨らませている。【思①】 ◆リズムの特徴をとらえ、変化とまとまりを付けて、踊ることができる。【技①】 ◆ダンスの名称や用語について、学習した具体例を挙げている。【知②】 ○ミッキーのルーティンを踊って見せ、繰り返し踊ることで身につけさせる。 ◆リズムに乗って全身で踊る動きができる。【技②】
なか① 55分×4 なか② 55分×3	基本的な動きをアレンジしたり、新しい動きを考え出したりしながら創作させる。創作したものを、人に見せる動き、人を魅せる動きとなるよう踊り込ませていき発表会への準備をさせる。曲に合わせて身体を動かすことや集団で動きを合わせていくことの楽しさを深く味わわせていく。 ○ミッキーのフリー部分の動きを組み合わせる。 ○ミッキーの踊り込みをする。 ○発表会①に向けたリハーサルを行う ○リハーサルの反省を生かして改良したり、踊り込みを深めたりする。 ○ミッキーの発表会①を行う。 ○自分が踊ったことや、人のダンスを見た感想を述べ合う。 ○基本ステップを知り、身につける。 ◎エキスパート活動 ○基本ステップをアレンジして動きを創作する。 ○「アシンメトリー」「コントラスト」「カノン」の要素を意識しながら動きを組み合わせる。 ◎ジグソー活動 ○組み合わせた動きを教え合う。 ○動きながら確認し、さらにより身体の動かし方や、表現の仕方がないか学習を深める。	○班で協力して動きの組み合わせをさせる。 ○身体を動かしながら創作するよう指導する。 ○人に見られるという意識をもつよう繰り返し声掛けをする。 ○ダンスが効果的に見えるよう指導する。 ○リハーサルの反省を本番に生かせるようさらに練習させる。 ○適切な態度で発表会に参加できるよう発表時の心がけや見学时に気を付けることを指導する。 ◆互いの違いや良さを認め合おうとしている。【関②】 ◆自己の責任を果たそうとしている。【関③】 ○「エキスパート活動」では、それぞれの課題を提示し、運動のねらいをもたせる。 ○「ジグソー活動」では、肯定的なやり取りを通して、互いに高め合いながら創作できるよう声掛けをする。 ◆仲間の表現や動きに対して指摘している。【思③】 ◆踊りの特徴と表現の仕方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。【知④】
まとめ 55分×3	隊形移動や集団での魅せ方に工夫を凝らして発表会②への準備をさせる。発表会②で練習してきたダンスを見せ合い単元のまとめを行う。 ○踊り込みをする。 ○隊形移動の工夫をする。 ○各生徒の動きの大きさ、正確さ、表現の仕方などを高め合っていく。 ○発表会②のリハーサルを行う。 ○発表会②を行い、互いのダンスを見せ合う。 ○単元の反省とまとめをする。	○組み合わせたダンスの踊り込みをさせる。 ○発表会②に向けて、集団としての動きや個々人の動きをより良いものにさせていく。 ○リハーサルで人へ見せることへの意識付けを行う ○適切な態度で発表会に参加できるよう雰囲気づくりをする。 ◆動きの中で隊形作りや踊りによる表現方法を工夫している。【思②】 ◆お互いに助け合い教え合おうとしている。【関④】 ◆交流や発表の仕方について、学習した具体例を挙げている。【知③】

5 本時の展開

→CoREF「知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案」に記載

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF)
知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業 授業案

学校名：県立春日部東高等学校

授 業 者：田崎 雅大

教材作成者：田崎 雅大

授業日時	平成27年9月16日(水)	教科・科目	体 育
学年・年次	第1学年	児童生徒数	38人
実施内容	ダンス(現代的なリズムのダンス)	本時/全時数	8/12

授業のねらい(本時の授業を通じて児童生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか)

ダンスがもともと得意な生徒だけでなく、全員がそれぞれの役割を担って主体的に新しい動きを生み出していく過程を重視する。班員で協力して動きづくりから組み合わせまで行ったダンスを発表会で披露し、踊ることの楽しさや、充実感・達成感を味わわせたい。

メインの課題(授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題)

アシンメトリー(バラバラに点在して動く)、コントラスト(対比・対照)、カノン(時間をずらして動きを追っていく)の三要素を使って、個や集団として人に見せる動きを創作しよう。

児童生徒の既有知識・学習の予想(対象とする児童生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。)

課題の内容は概ね理解できても、具体的に動きを創作していく作業や曲に合わせることに、また、出来た動きを仲間に伝えたり、前後の動きとうまくつなげたりという点につまずくことが考えられる。

期待する解答の要素(本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれていてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準)

まず、エキスパートとしての自己の責任を果たそうと努力すること。その上で、互いのよいところを認め合い、高め合ってほしい。

各エキスパート<対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください>

- (A) アシンメトリー：バラバラに点在して動く。全体として調和がとれている。解放感や広がり。
- (B) コントラスト：対比・対照。二つの動きが相反する。
- (C) カノン：いくつかの群または個が時間をずらして動きを追っていく。

ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

見ている人の視線をより意識しながら、個としてまた、集団として曲に合わせて効果的に身体を動かしていく方法を探していく。適宜、ジグソー活動を繰り返していく。
互いの良さを認め合い、踊りによる表現方法を工夫しながら発表会への準備を進めさせたい。

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	・ミッキーや身体の動かし方や使い方、見せ方などを学習する。 ・発表会①	・基本的なステップ身体の動かし方を概ね身につけている。 ・どのように動かせばよりよく見えるか知っている。 ・発表会への準備の仕方を工夫している。
前時	・基本的なステップを習得する。 ・班分け、選曲を行う。	・基本ステップ概ね身につけている。 ・ダンスの構成について知っている。
本時	・協同学習（エキスパート、ジグソー活動） ・「アシンメトリー」「コントラスト」「カノン」の要素を工夫し、集団や個として、人に見せるダンスを創作する。	・互いに協力して動きを組み合わせる。 ・全員が動きづくりに参加する、主体的な学びを展開させる。
次時	・動きの組み合わせ部分を完成させる。 ・完成した部分の踊り込みを行う。	・全員が動きづくりに参加する、主体的な学びを展開させる。 ・よりよく人に見せるための工夫を凝らしている。
この後	・発表会②に向けてダンスを仕上げていく。	・細かい修正を加えながらリハーサルや本番への準備を進める。

上記の一連の学習で目指すゴール

生徒がもっている豊かな感性や独創性を最大限に生かしながら、仲間との話し合いを通して主体的に動きを創作させたい。基本的な動きをアレンジしたり、隊形移動などの工夫を凝らしたりしながらそれぞれの班がオリジナルの作品を仕上げ、音楽に合わせて表現運動をすることの楽しさや練習してきたことを発表することの充実感を深く味わわせたい。

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
	<導入> 1 ランニング、集合、挨拶、点呼 2 本時の内容について知る。 3 準備運動、ストレッチ、柔軟、補強 4 ミッキー（ウォーミングアップ） <課題提示> ○「アシンメトリー」「コントラスト」「カノン」の要素を意識しながら基本ステップをアレンジして班ごとの動きを組み合わせよう。	○望ましい態度で授業に参加できるようにしっかりと取り組ませる。 ○ストレッチ、柔軟では、息を吐きながら身体をリラックスできるように声掛けをする。 ○楽しい雰囲気の中で創作できるように、クラップや掛け声などをしっかりとさせる。
	<エキスパート活動> 5 アシンメトリー：バラバラに点在して動く。全体として調和がとれている。解放感や広がり。 6 コントラスト：対比・対照。二つの動きが相反する。 7 カノン：いくつかの群または個が時間をずらして動きを追っていく。 <ジグソー活動> エキスパート活動で学習したことを自分のグループに教え、取り組む。 <クロストーク> 組み合わせた動きや感じたことなどを互いに発表し合う。 <活動の振り返りとまとめをする> 8 完成した部分までを踊ってみる。 9 学習カードに記録する。 10 授業のまとめ、次時について知る。 11 挨拶	○各エキスパートには視覚教材の他、実際の動きを示し、具体的なイメージをもって創作に移れるようにする。 ○身体を動かしながら考えるよう指導・助言する。 ○シンプルな動きから考えてさせる。 ◆仲間の表現や動きに対して指摘している。 【思考・判断③】 ○互いに助け合い、教え合うことができるよう見守りつつも、適宜、指導・助言する。 ◆踊りの特徴と表現の仕方について、理解したことを言ったり書きだしたりしている。 【知識・理解④】 ○活動を通して独創的な動きや面白い動きが見られたグループを取り上げて紹介し、工夫を学び合わせる。 ○本時の学習が次時以降に生かしていけるよう意識させる。

グループの人数や組み方
・エキスパート活動 13名×2グループ、12×1グループ ・ジグソー活動 13名×2グループ、12×1グループ ・欠席者がいた場合には適宜調整する

(エキスパート資料 A)

この要素を入れてみよう♪

アシンメトリー

意 味：不釣り合い、不均斉(symmetry：左右の釣り合いがとれていること。対称。)

内 容：バラバラに点在して動く

効 果：全体として調和がとれている 解放感や広がり

工 夫：度合を調整する

前後の隊形移動 移動の方法

(エキスパート資料 B)

この要素を入れてみよう♪

コントラスト

意 味：対比。対照。互いに対立する二つの要素が際立つこと。

内 容：二つの動きが相反する

工 夫：左右／前後／上下、個で／集団で、隊形移動と組み合わせて

(エキスパート資料 C)

この要素を入れてみよう♪

カノン

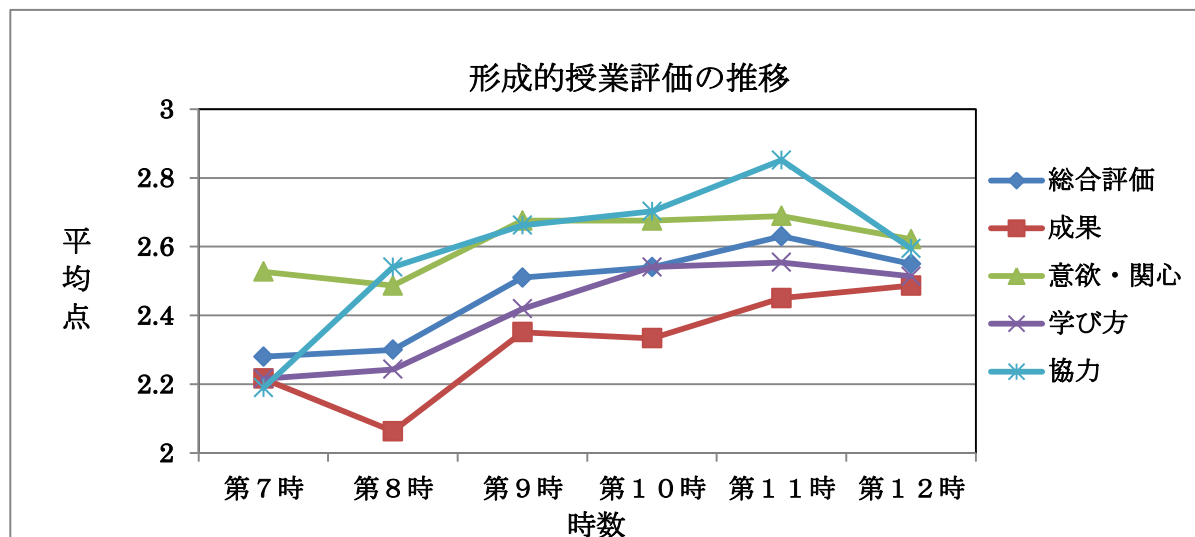
意 味：[音]楽曲の形式、またはその技法の一種で、ある声部が歌いだした旋律を
後続の声部が忠実に模倣しつつ進む対位法的な曲。輪唱など。

内 容：時間をずらして動きを追っていく

工 夫：個／集団、ずらす幅、隊形移動と組み合わせて

7 成果と課題

【高等学校 第1学年 ダンス（現代的なリズムのダンス）】



	第7時	第8時	第9時	第10時	第11時	第12時
総合評価	2.28	2.30	2.51	2.54	2.63	2.55
成果	2.22	2.06	2.35	2.33	2.45	2.49
意欲・関心	2.53	2.49	2.68	2.68	2.69	2.62
学び方	2.22	2.24	2.42	2.54	2.55	2.51
協力	2.19	2.54	2.66	2.70	2.85	2.59

単元の後半（2学期：7～12回）にて形式的授業評価を実施
第8時に協調学習を実施

（3点満点）

（1）成果

- ①どの項目も概ね上昇傾向を示しているが、最終時では特に「意欲・関心」の値が高かった。
- ②第8時より「協力」の評価が上昇している。話し合いが活発になり、意見を述べる生徒が固定化されていたものが徐々に解消され、普段あまり話さないような生徒も、ダンスの動きづくりに積極的に関わりだした結果だといえるであろう。

（2）課題

- ①話し合いと運動量との兼ね合い（エキスパート説明時の他グループの活動確保）。
- ②上記の点を解消するには、複数体制での指導やDVD教材の事前準備の必要性。
- ③適切な課題を設定や、それに対するエキスパート活動の項目立ての難しさ。
- ④エキスパート活動の項目立ての難しさ。

（3）今後の展望

協調学習による授業実践を積み上げて、さらに、教材・教具・学習資料等の工夫改善を行い、この授業法の可能性を探っていきたい。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

本研究では、「研究の仮説」として、次の効果を期待した。

「知識構成型ジグソー法」による協調学習の実践によって

- ①児童・生徒が「主体的な学び」と「協働的な課題発見と解決」に取り組むこと
- ②指導方法の開発によって教員の授業改善に資すること
- ③「豊かなスポーツライフの実現」を目指す授業実践例となること

今回の調査研究によって、小・中・高の体育・保健体育のいくつかの領域ではあるが、「知識構成型ジグソー法」による協調学習の実践事例を蓄積することができた。研究協力委員からの意見や形成的授業評価をもとに、「研究の仮説」について検証を行うと、以下のように整理されと考えている。

(1) 児童・生徒が授業の見通しを持ち、学習課題に意欲的に取り組むようになったこと

授業のゴールを明確に示すことによって、グループなどの仲間と協力し合う場面や教え合う場面が多く見られるようになったことが研究協力委員から報告された。体育・保健体育の授業では、グループ等の学習形態がもともと多く取り入れられているが、協調学習によって仲間を意識した協働的な学びがより活発になったと推察される。

(2) 主体的に学ぶ姿勢が生まれたこと

授業の見通しを持たせることで児童・生徒が意欲的に取り組み、その結果技能が向上したことで自信につながり、「主体的に学ぶ態度」が育成されたことが研究協力委員から報告された。

(3) 児童・生徒が新たな学び方を身に付けたこと

本研究では、形成的授業評価を用いアンケートを実施し、その調査項目を「成果」、「関心・意欲」、「学び方」、「協力」に分けて児童・生徒の意識の変容を検証したが、多くの授業で高い評価を得たことが確認できた。この結果は、(1)、(2)とも関連するが、意欲をもって主体的に運動に取り組み、協働的に課題解決を試みるなど、新たな学び方を身に付けていることを示しているものと考察される。

(4) 教員が継続的に授業を改善していくことの必要性を再認識できたこと

研究協力委員が「知識構成型ジグソー法」による協調学習の有効性について実感したことも本研究の成果である。今後、研究協力委員らが自らの授業改善に取り組むとともに、「知識構成型ジグソー法」による協調学習の充実・普及に貢献してくれることを期待している。

2 今後の課題

今回の研究によって多くの成果を確認できるとともに、今後取り組むべき課題も明らかになってきた。研究協力委員からも「運動量の確保」や「課題（問い）の設定とエキスパート活動で行う資料の作成」が課題であるという意見が出されている。今後の取り組む必要がある事項を以下のように整理した。

- (1) 主体的・協働的な学びを、より効果的に引き出すための領域を含めた、授業計画上の位置づけの検討
- (2) 協調学習を効果的に実施するための教材・教具、学習資料等の開発
- (3) 「知識構成型ジグソー法」による協調学習の充実・普及のための研修機会の確保、指導者の養成
- (4) 「知識構成型ジグソー法」による協調学習に関する客観的評価方法の検討と開発
- (5) 「豊かなスポーツライフの実現」を目指した授業実践の視点での効果を得ることができたが、まだまだ不十分な面もあった。運動技能の定着や運動量に関する検証、評価方法（技能、態度、知識、思考・判断）に関する研究の推進

研究に携わった関係者（所属・職名は平成28年3月末日現在）

○ 研究協力委員

行田市立太田東小学校	教諭	亀山友宏	
熊谷市立大幡小学校	教諭	中嶋史和	
鶴ヶ島市立杉下小学校	教諭	鈴木奈津子	
蓮田市立蓮田南中学校	教諭	武士俣豪志	
戸田市立新曽中学校	教諭	矢作有希	
川島町立川島西中学校	教諭	遠藤和宏	
県立越ヶ谷高等学校	教諭	鶴見舞	
県立北本高等学校	教諭	袖山和博	
県立春日部東高等学校	教諭	田崎雅大	
狭山市立南小学校	教諭	尾崎孝之	（平成27年度長期研修教員）
深谷市立幡羅小学校	教諭	笛場敦司	（平成27年度長期研修教員）
八潮市立松之木小学校	教諭	城山和彦	（平成27年度長期研修教員）

なお、県立総合教育センターにおいては、次の指導主事が担当した。

教育課程担当 指導主事兼所員 西川光治
教育課程担当 指導主事兼所員 勝部武

1年間「体育・保健体育における『協調学習』の進め方」について研究を進めてまいりました。各校で授業実践を行い、その授業の検証とまとめの資料を作成していただきました研究協力委員の皆様には、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



埼玉県のマスコット
「コバトン」